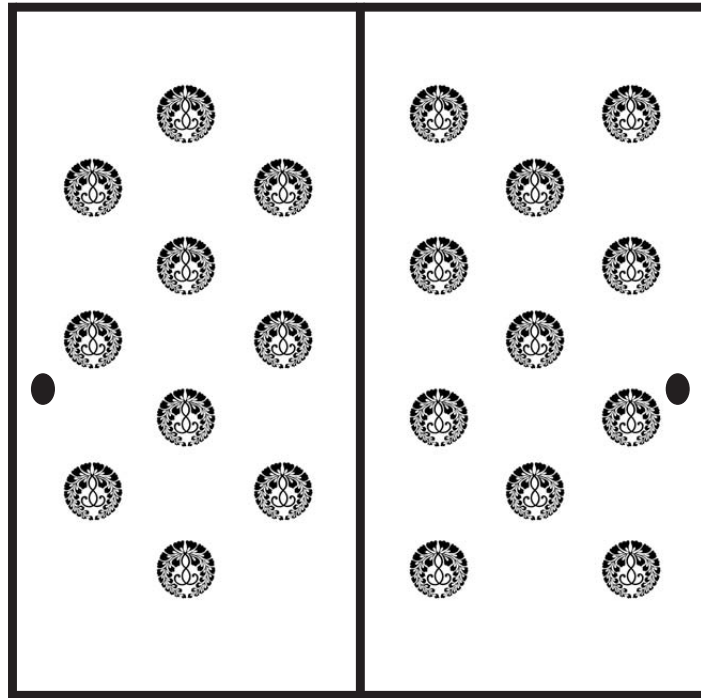


雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：有 巾広：有

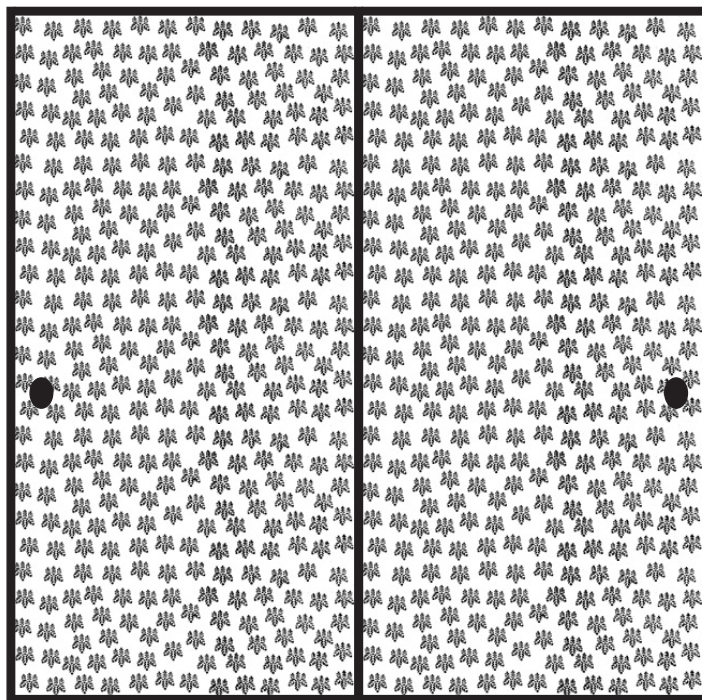


家紋およびサイズ、配置はご指定下さい



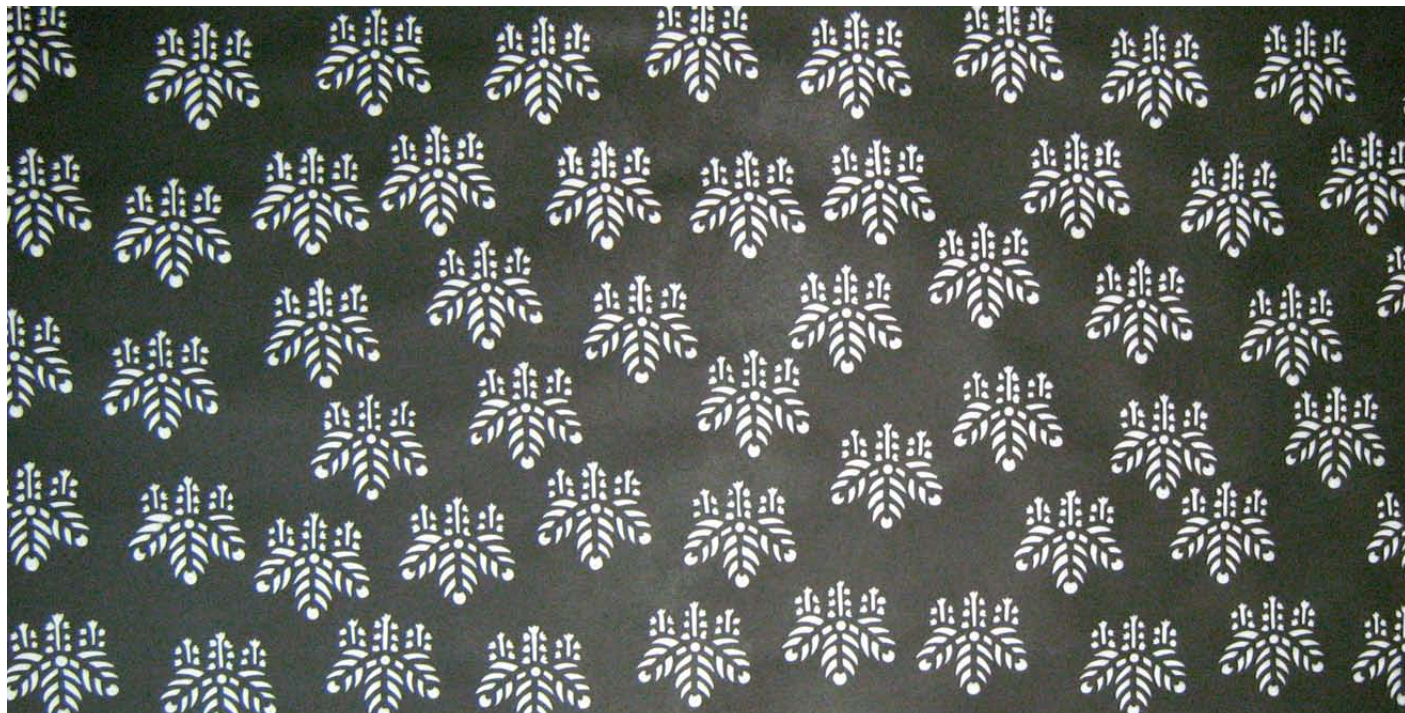
雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母盛り

丈長：有 巾広：有



総柄

柄サイズ：900×340

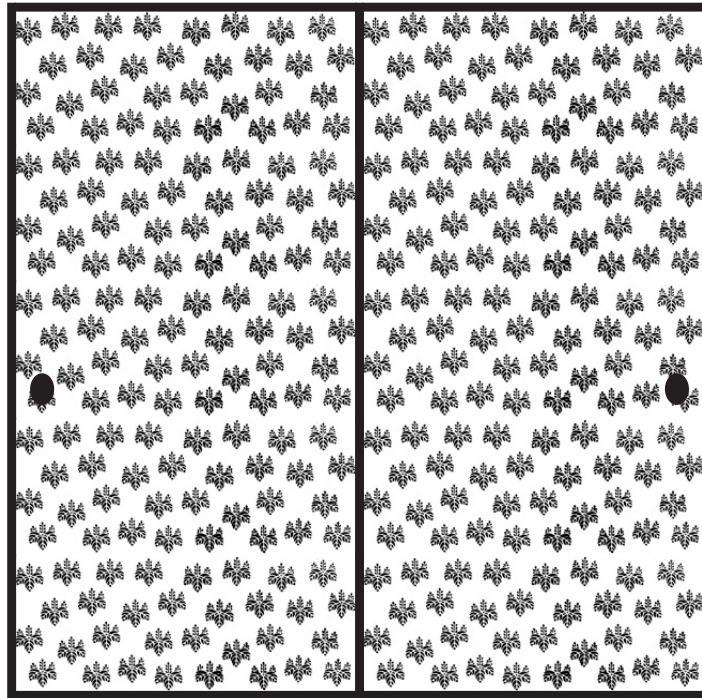


・茶方好み

板木ではなく、厚手の型紙を切って必要位置に置き、型紙の高さまで胡粉を盛り上げて文様を出す置上技法で、レリーフ(浮彫り)のような効果を出している。現在でも家元の千家、残月亭に使われており、また高台寺円徳院にも同柄の襖があり、四百年も昔のものという事からもこの技法の古さがわかる。一般茶人にも愛用されている。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母盛り

丈長：有 巾広：有



総柄

柄サイズ：890×340

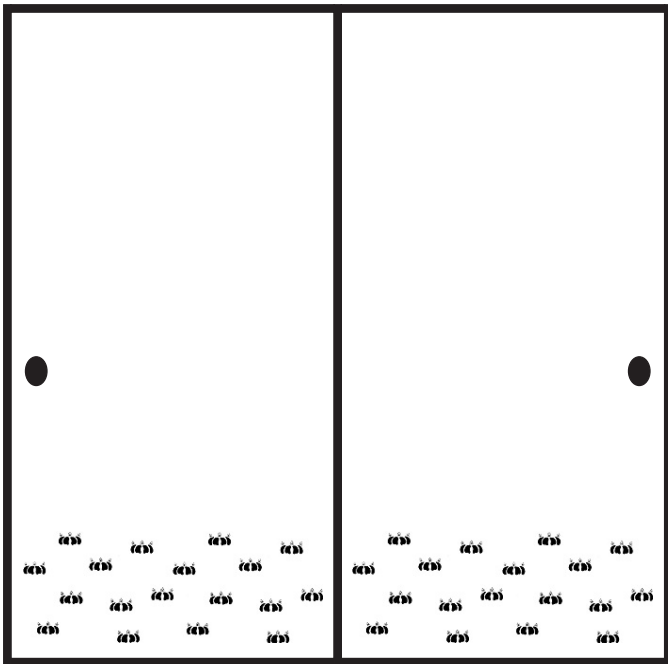


・茶方好み

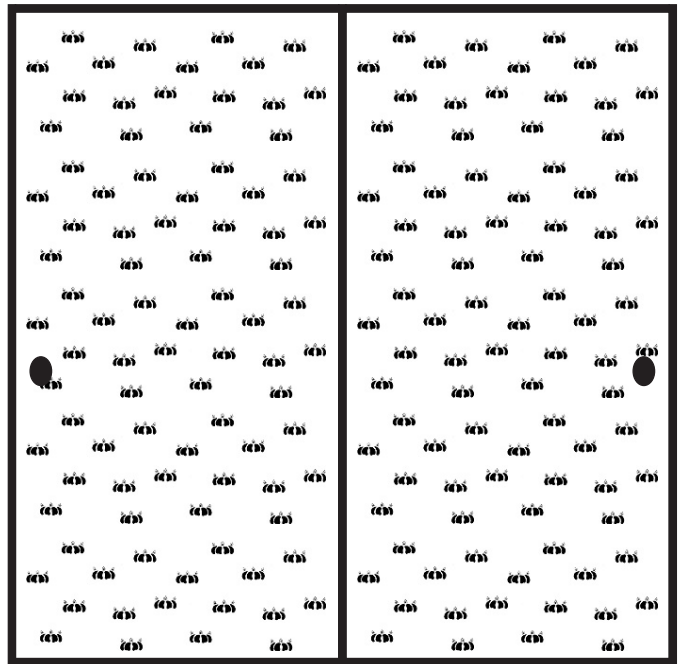
板木ではなく、厚手の型紙を切って必要位置に置き、型紙の高さまで胡粉を盛り上げて文様を出す置上技法で、レリーフ(浮彫り)のような効果を出している。現在でも家元の千家、残月亭に使われており、また高台寺円徳院にも同柄の襖があり、四百年も昔のものという事からもこの技法の古さがわかる。一般茶人にも愛用されている。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄



総 柄

柄サイズ：900×1850 (総柄) / 900×350 (腰柄)

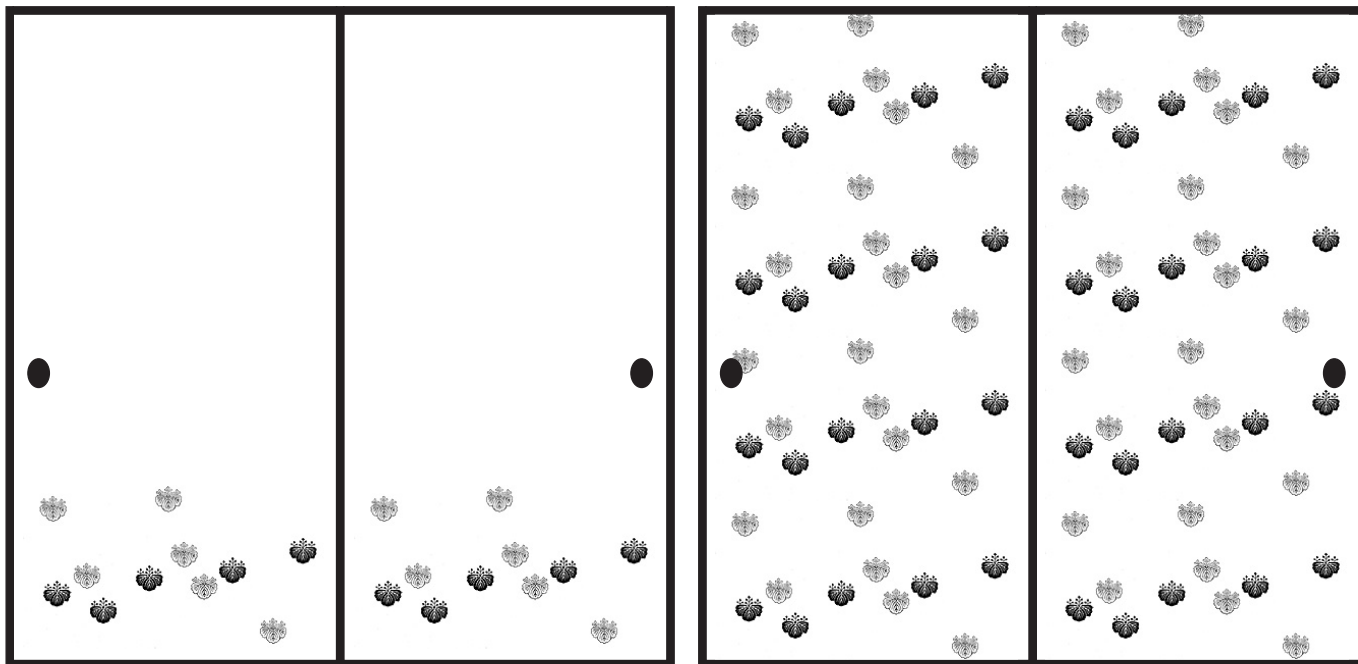


・茶方好み

桐はもともと鳳凰の止まる木として神聖視されており、日本でも「桐の紋章」は「菊の紋章」に次ぐ高貴な紋章とされている。からかみ文様にも桐を使ったものが数多くあり、この南京桐は、桐が大胆に省略され、親しみやすい図柄となっている。からかみには、他に蝙蝠桐、兎桐、お多福桐、茄子桐などの桐文様がある。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄

総 柄

柄サイズ：935×1850 (総柄) / 935×465 (腰柄)



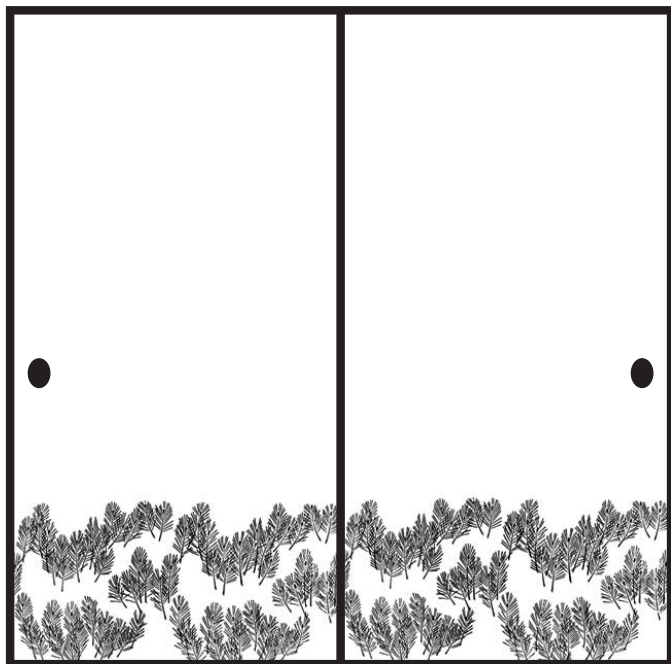
・御所関係

影彫り(輪郭線)日向彫り(地埋め)の交互の段列で陰陽に全面を構成している。こうした技巧は板刷り文様の特技といえる。戦争中、桂離宮新書院の一部修復の際に、離宮創建時の版木がなく、復刻もできない時代のためこの桐文を納めたといわれる。

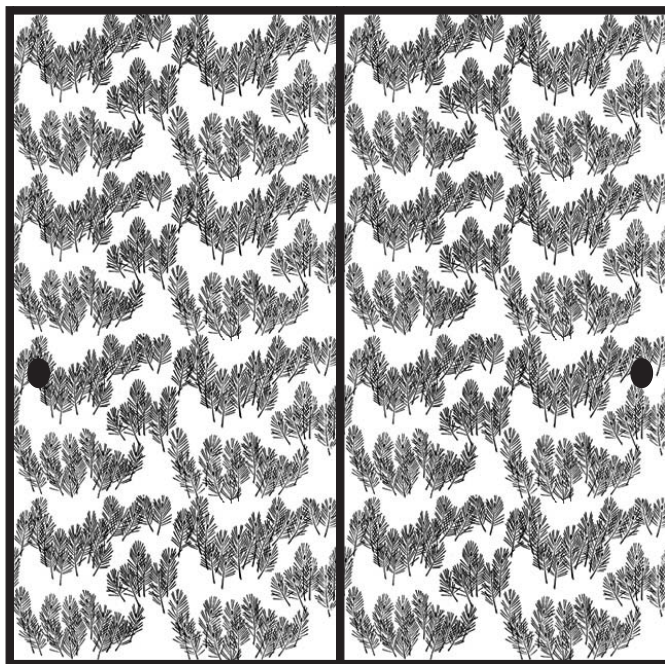
雲母集見本帳 No.3106 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910× 970 / 摺り色：雲 母
No.3107 使用紙：桂 No.2252 本鳥の子 (桑色) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲 母

No.3106 丈長：有 巾広：無

No.3107 丈長：有 巾広：無



腰 柄



総 柄

柄サイズ：920×1880 (総柄) / 920×430 (腰柄)

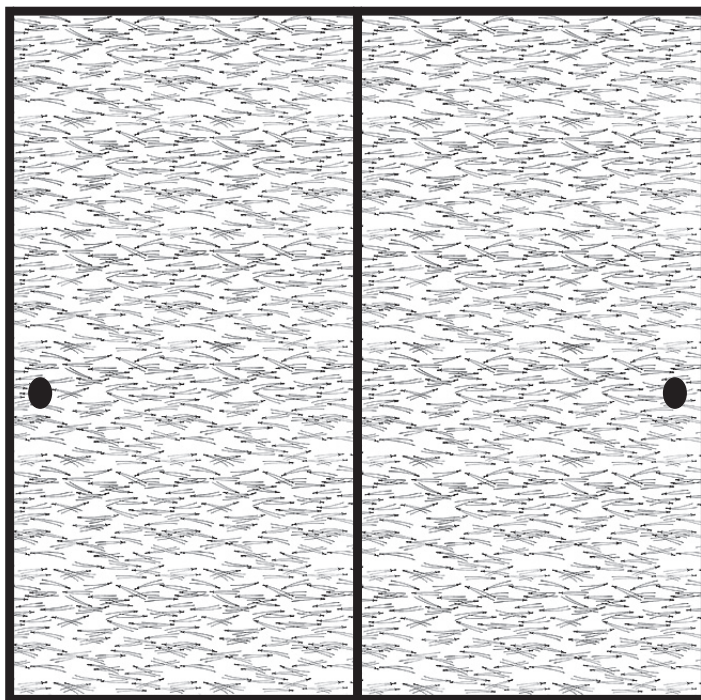


・町家好み

明治～昭和時代にかけて活躍した画家、山元春拳の下絵からつくられた文様。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：無



総柄

柄サイズ：940×1850

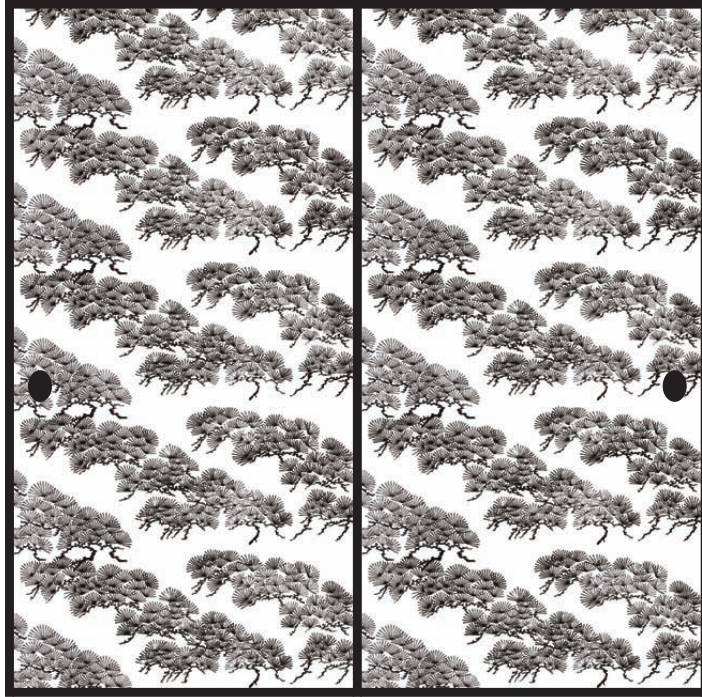


・茶方好み

庭の苔や土、樹木の根などを霜で痛めぬよう、冬に入ると霜よけに枯松葉を敷きつめる習いがある。現在でも茶庭には、炉開き(11月中旬)の頃から3月頃まで敷き松葉をする。その敷き松葉を図案化したもの。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：930×1880

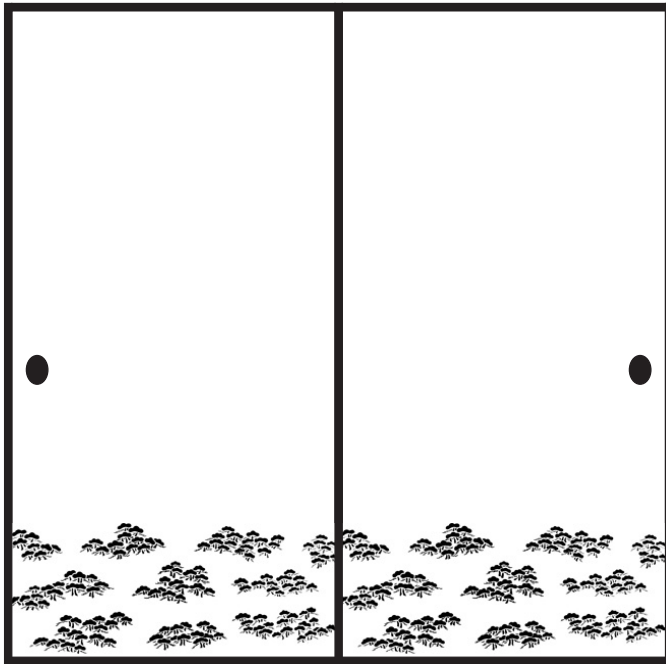


・武家・町家好み

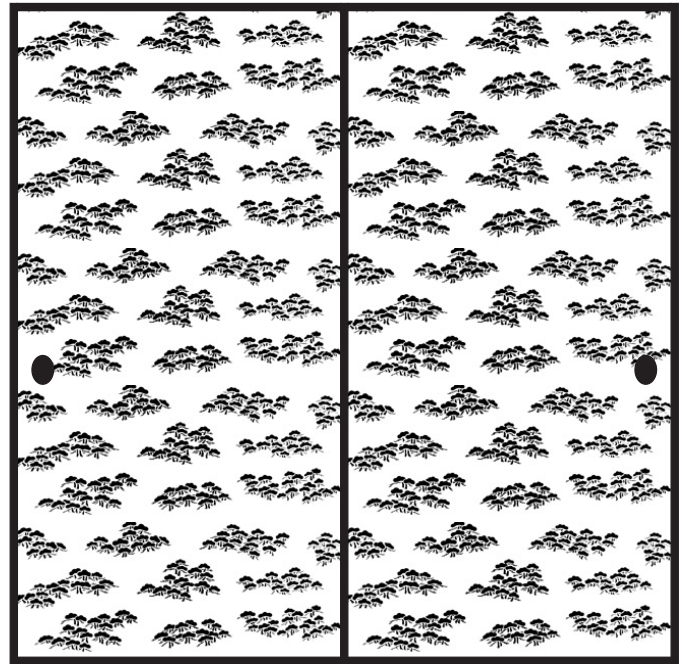
松は冬にも枯れぬ常緑樹と、千年の長寿の吉祥文様。特に老松はその枝振りが鑑賞の重大要素となることは、庭木や盆栽に見る通りである。この文様はその曲折した枝振りを巧みに生かしており、日常松樹を身近に見る日本の風土でしか生まれ得ないパターンである。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有

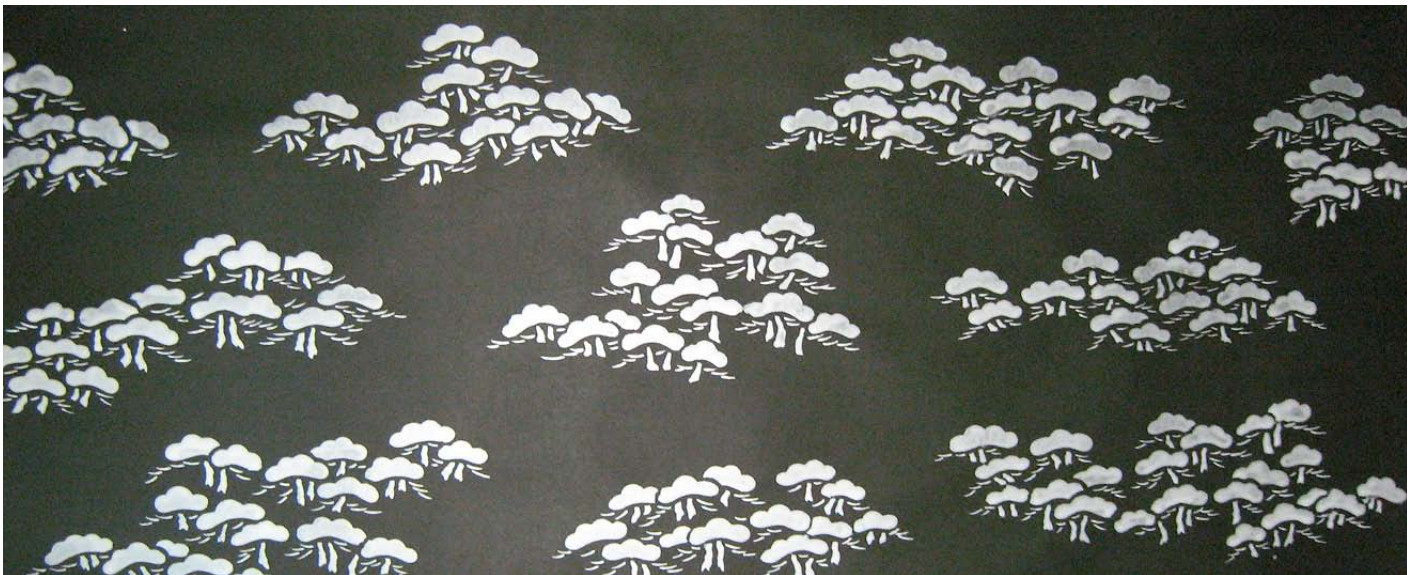


腰 柄



総 柄

柄サイズ：920×1880 (総柄) / 920×345 (腰柄)



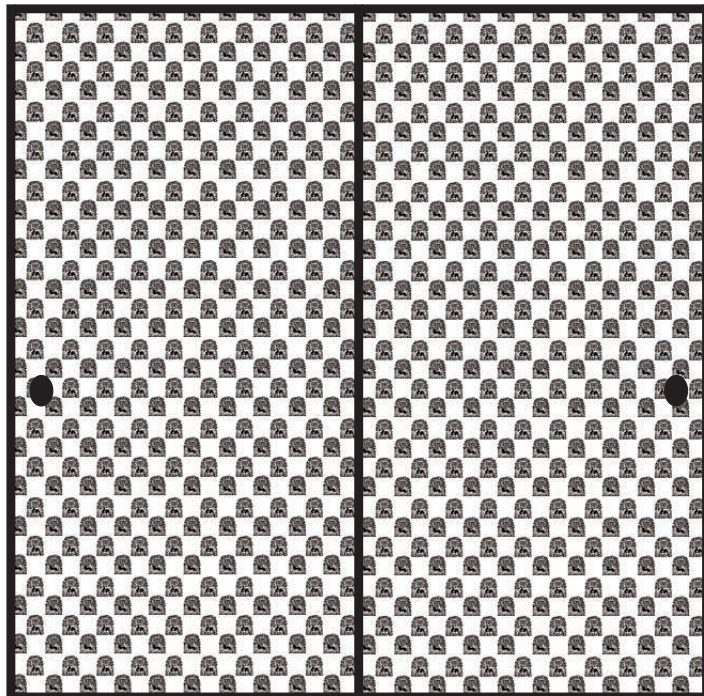
・武家・町家好み

平安時代の海辺文様に似た文様構成であり、また形は州浜にも似るが、光琳筆の松鶴屏風の中に類似の松がある。尾形光琳は江戸中期の最も著名な画家、工芸家で、光琳風、光琳模様と今日でも讃仰される多くの傑作と独自の画風を遺している。デフォルメの強いこの小松文(小松の小は小模様の意で、松の木は成木)も装飾的意図の濃いものである。

雲母集見本帳 No.3111 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910× 970 / 摺り色：雲 母
No.3112 使用紙：桂 No.2252 本鳥の子 (桑色) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲 母

No.3111 丈長：無 巾広：無

No.3112 丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：940×1880

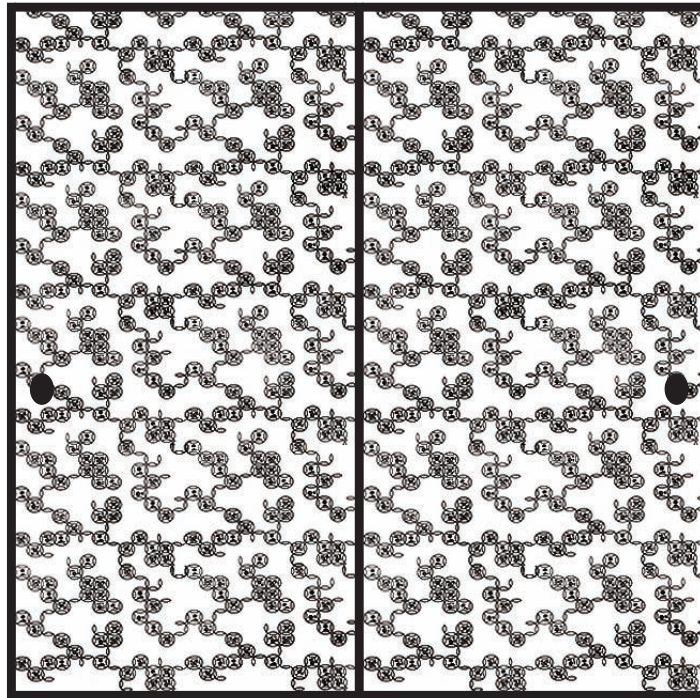


・武家・町家好み

兎が月で餅をつく話は南アジアの神話で、月中の兎は古く中国に伝わって楚辞(中支の楚国の詩集)に現れ、また漢の瓦当の押型に見られる。日本では、国宝・飛鳥の天寿国繡帳(てんじゅこくしゅうちょう)に、堅杵を忘れた兎が餅でなく長寿の薬草をついている図柄がある。ステンドグラスの影響を思わせるこの作土形文(窓形)は、兎が波を跳んで宝相華咲く月に向かうより古い説話のかたちで、作土形、草花、兎の組み合わせを花兎文と呼び、幾種もの金欄の名物裂が残っている。

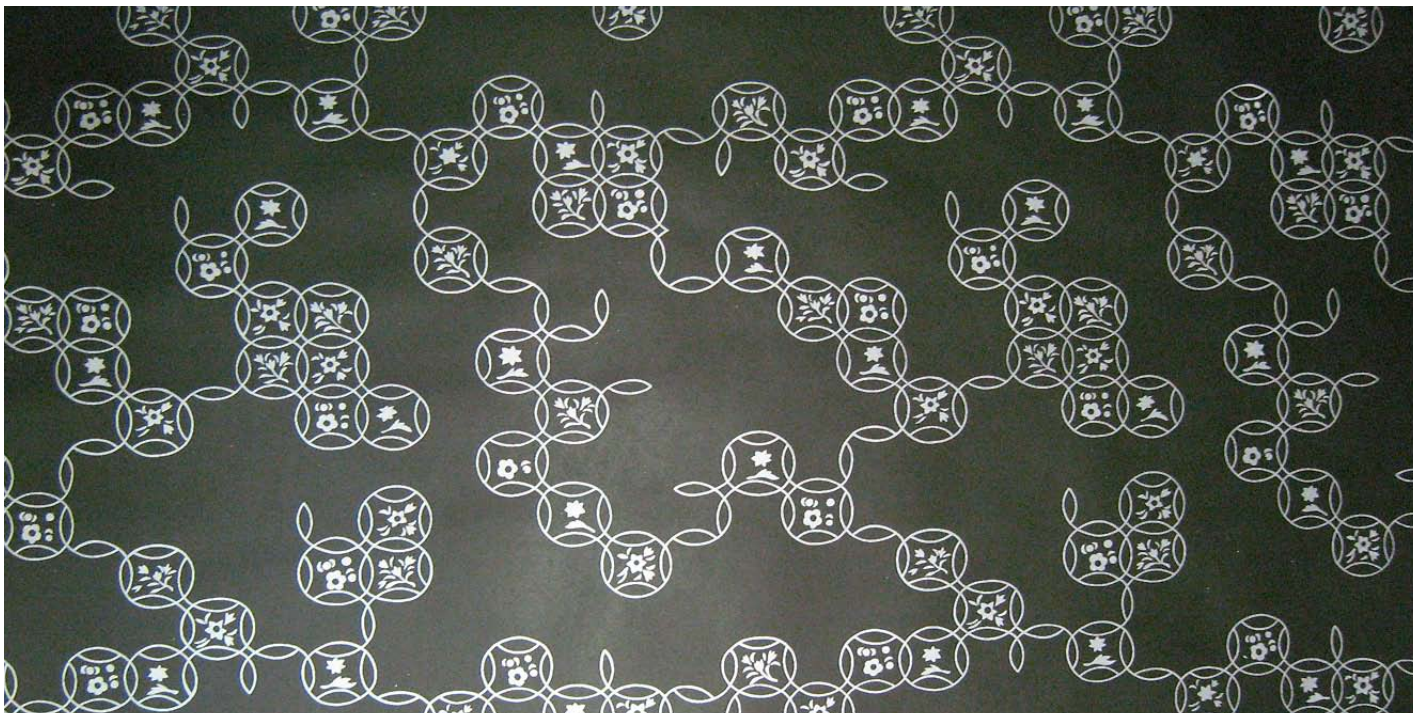
雲母集見本帳 No.3113 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910× 970 / 摺り色：雲 母
No.3114 使用紙：桂 No.2251 本鳥の子 (桜色) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲 母

No.3106 丈長：無 巾広：無
No.3107 丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：940×1880

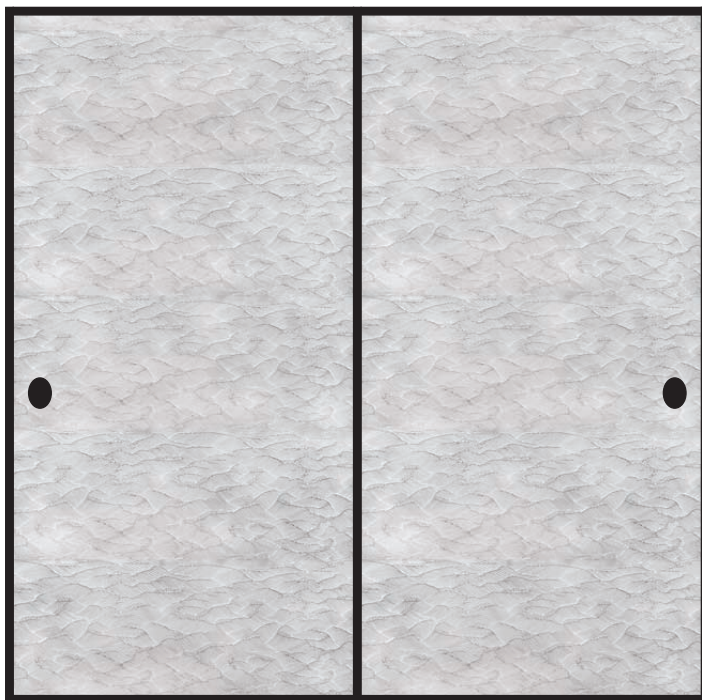


・茶方好み

七宝は金銀、瑠璃、珊瑚…など七種の宝、と仏典にあるため、仏事の荘厳(仏徳を現す寺院の飾り)とするが、そのように美しいの意味。これは破れ七宝(連続文様が切れていること)の中にりんどうやもみじ、梅花などの小花が描かれており、七宝の瑞祥思想に加えて日本の四季絵的趣好を組み合わせたものである。現在でも茶器茶道具類の上絵によく見かける。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：無 巾広：無



総 柄

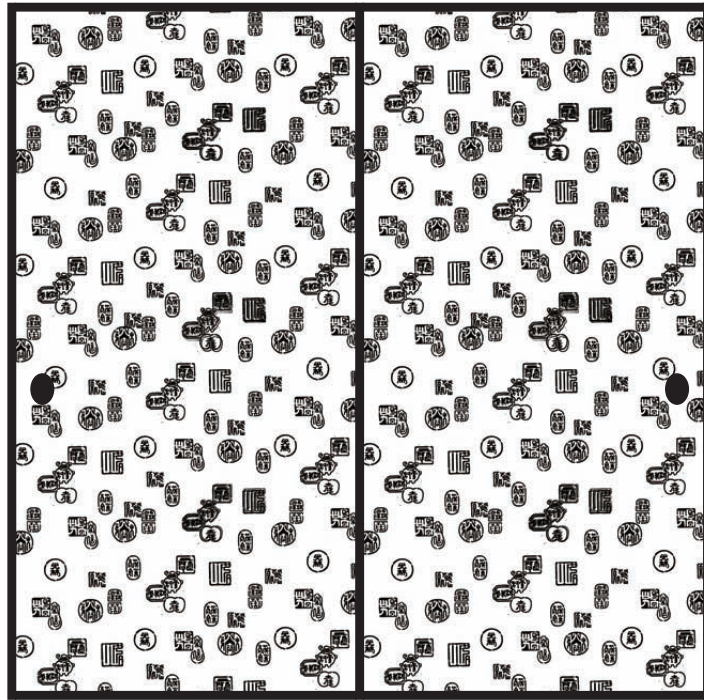
柄サイズ：950×1800



・武家・町家好み

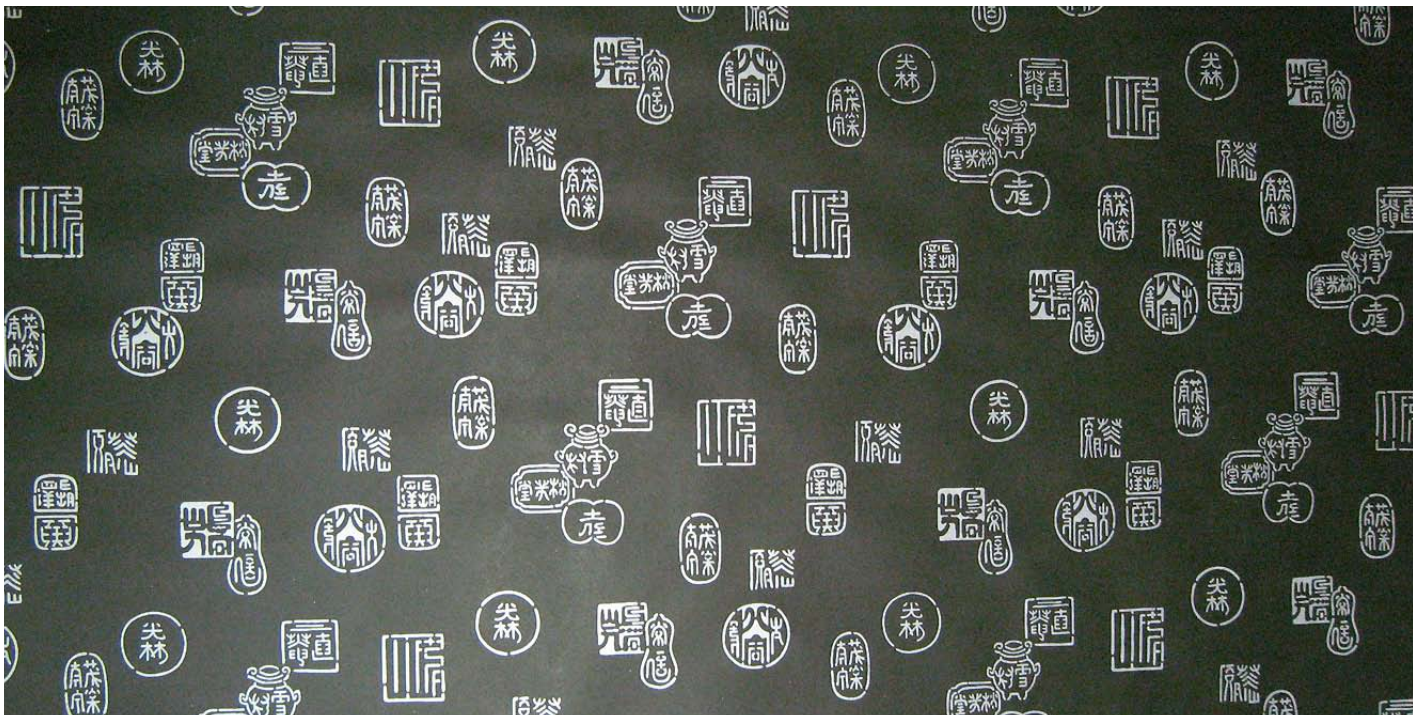
光悦の波をうつしたもので、この種の波は国宝・信貴山縁起(平安後期) 国宝・法然上人絵伝(鎌倉末)などにあり、他にも古くから蒔絵や鏡に描かれ、装飾的效果を見せている。また中国明代に織られ、我が国に舶載された名物裂の荒磯緞子も有名で、波間に鯉が跳ねているパターン(中国で竜門の鯉魚と呼ぶ吉祥文)は、茶人たちにも愛好された。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：940×1850

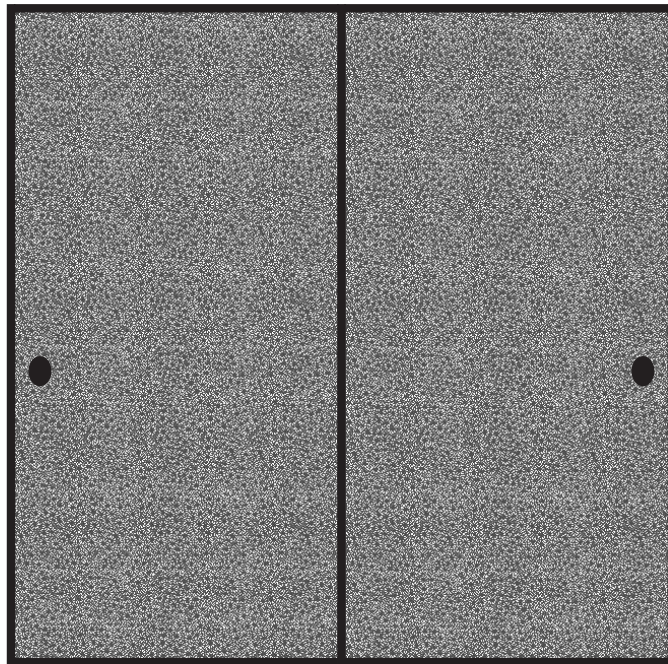


・町家好み

さまざまに図案化された印(落款)が全体に配置されたおもしろい文様である。

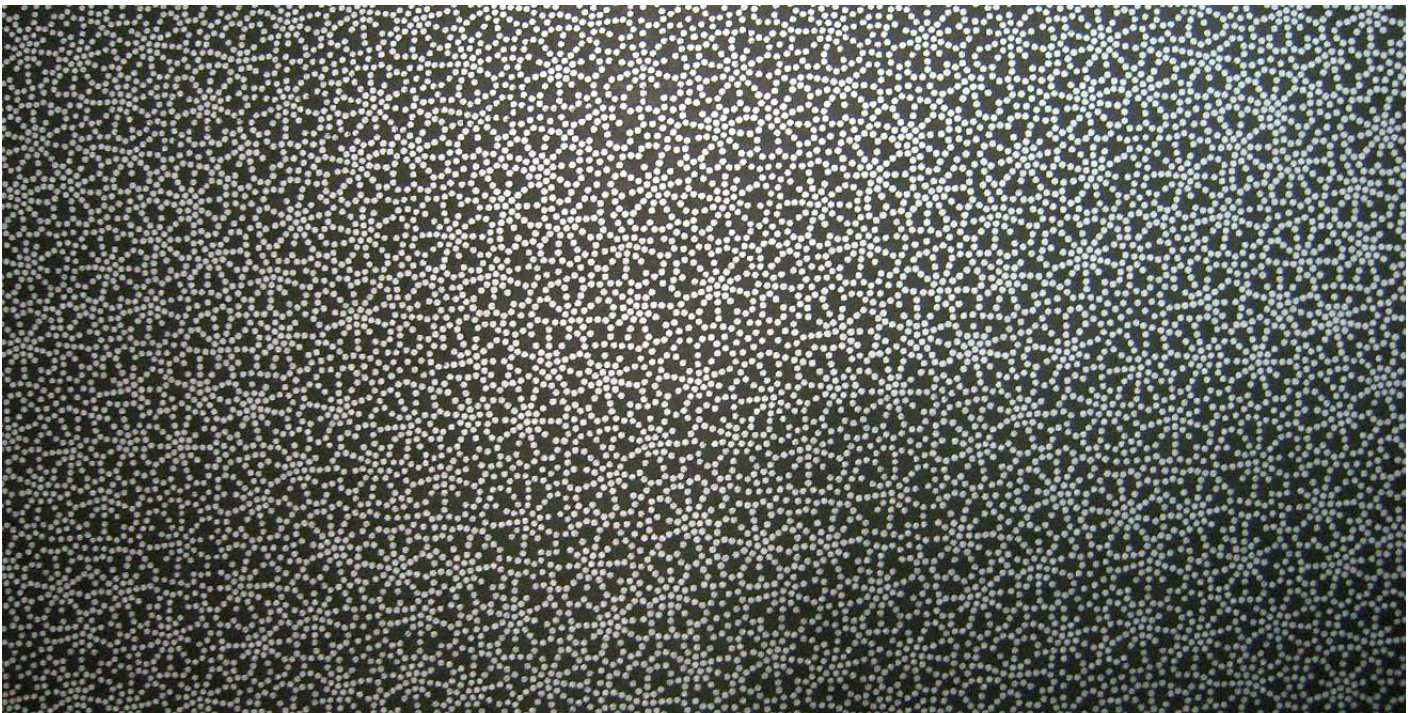


雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：無 巾広：無



総柄

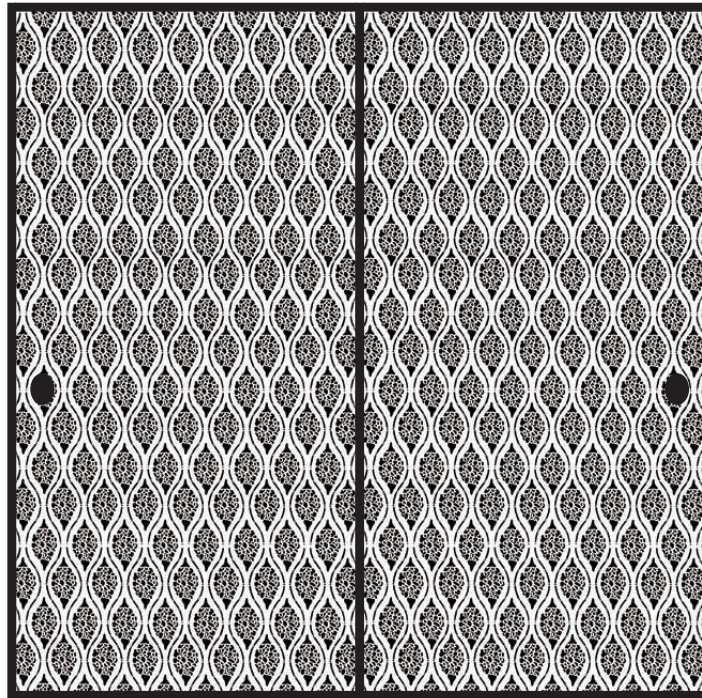
柄サイズ：940×1880



江戸小紋は、江戸時代に緒大名が着用した袴の染めに由来する文様で、全体に細かい模様の入った単色染めの着物である。ここでは、全体に小花を配した江戸小紋柄の文様となっている。

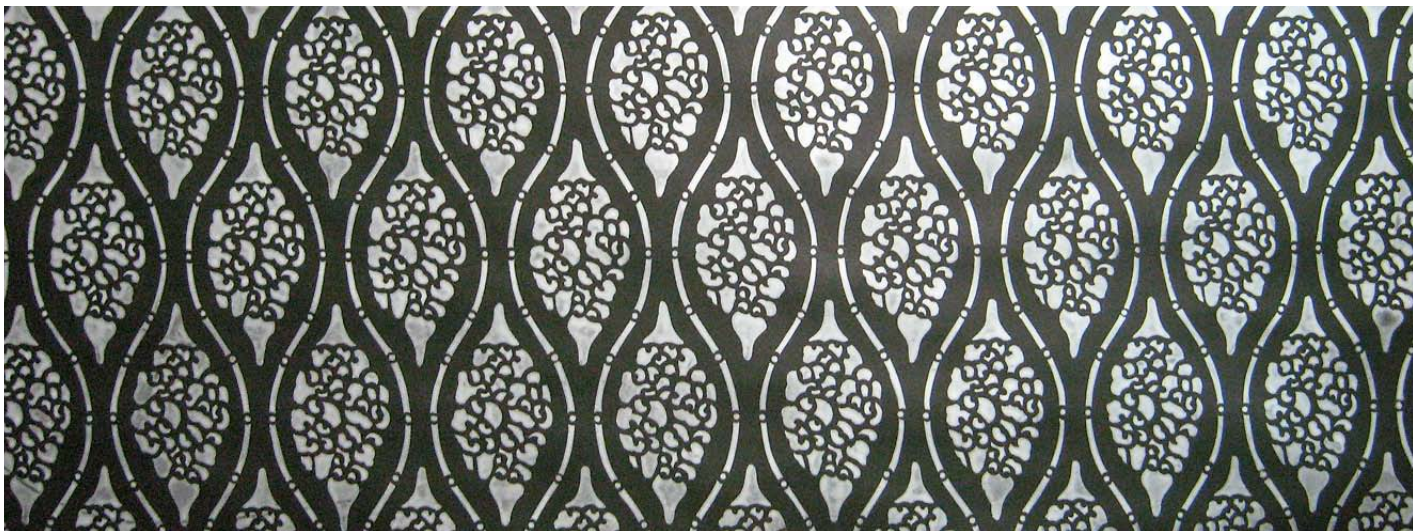
雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：無



総柄

柄サイズ：930×1850

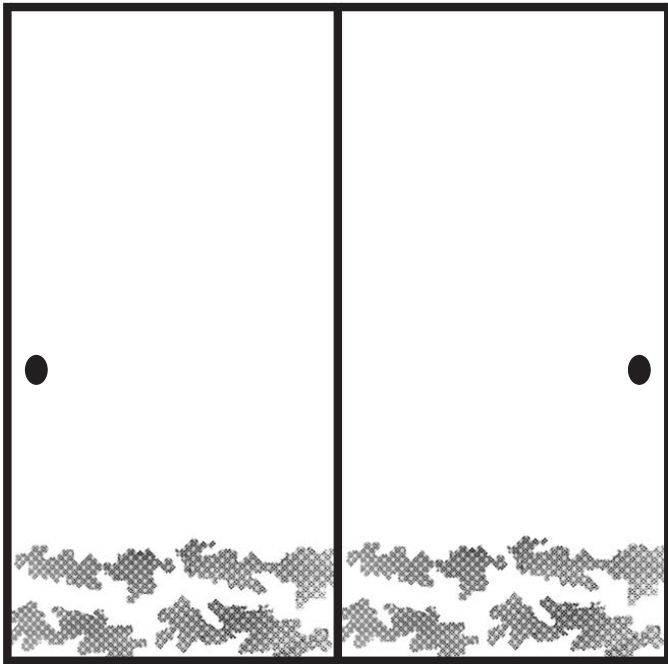


・公家・武家好み

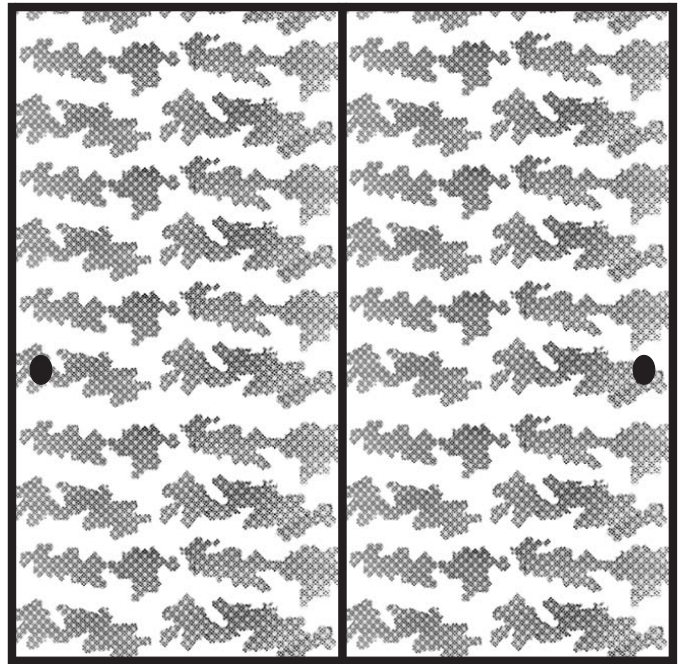
立涌は、水蒸気がゆらゆらと立ち涌く様を文様にしたもの。鎌倉期は家門を誇示し紋章を作って身分や家柄を示す風潮が生まれ、公家にも五摂家清華の制定があり、その装束の織文の各異文が作られた。例えば雲立涌は親王と摂政関白家、更に細分して立涌の中に四つのむら雲を立菱形に配したのは近衛家、一つの雲を立涌内に入れ、立涌線を地おとしの織ったのは一条家である。正しくは、これが今日いう「有職文」で、平安期に習慣として成立した家々の装飾文が初めて制度化したのである。



雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：有 巾広：有

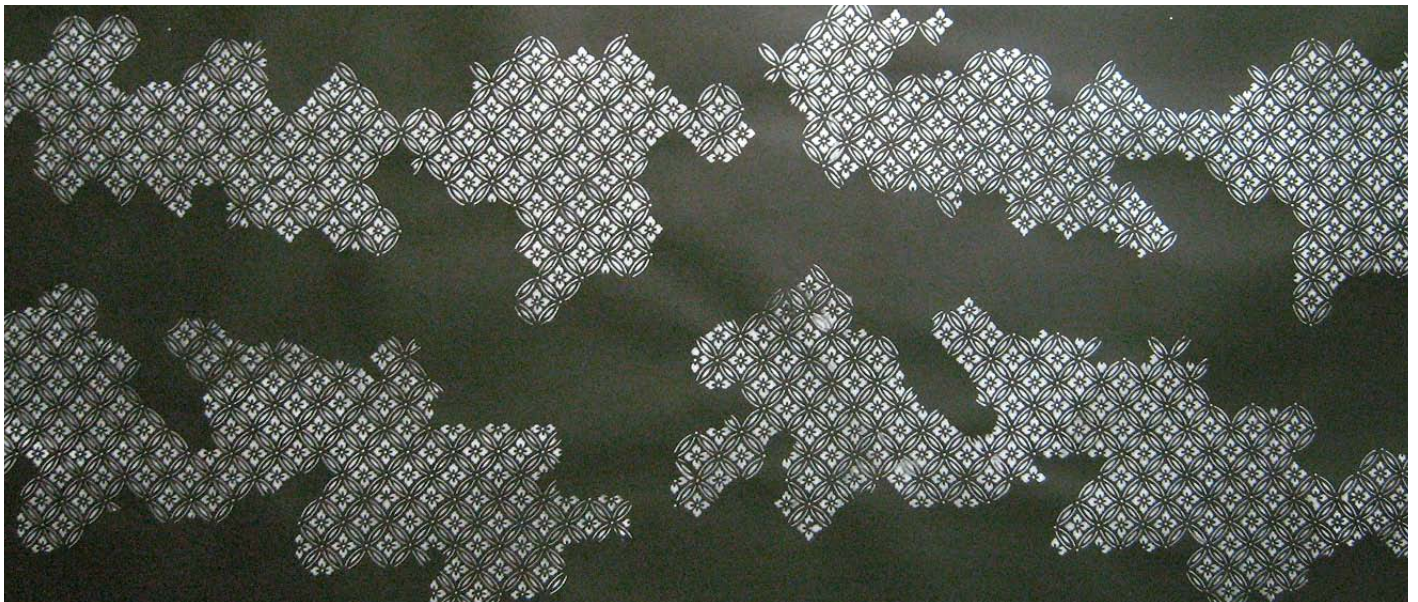


腰 柄



総 柄

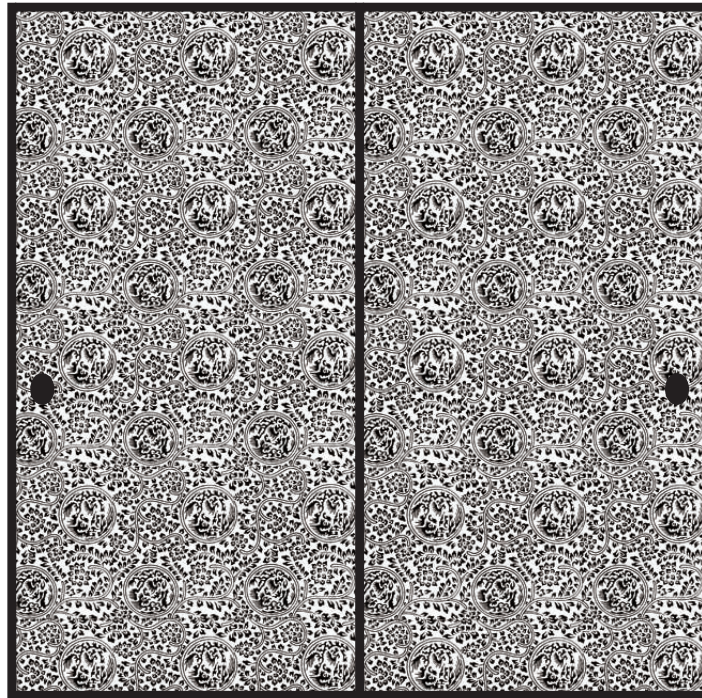
柄サイズ：940×1850 (総柄) / 940×350 (腰柄)



菱形の花を遠目に見ると、雲の様に見える「破れ七宝文」に配した図柄である。

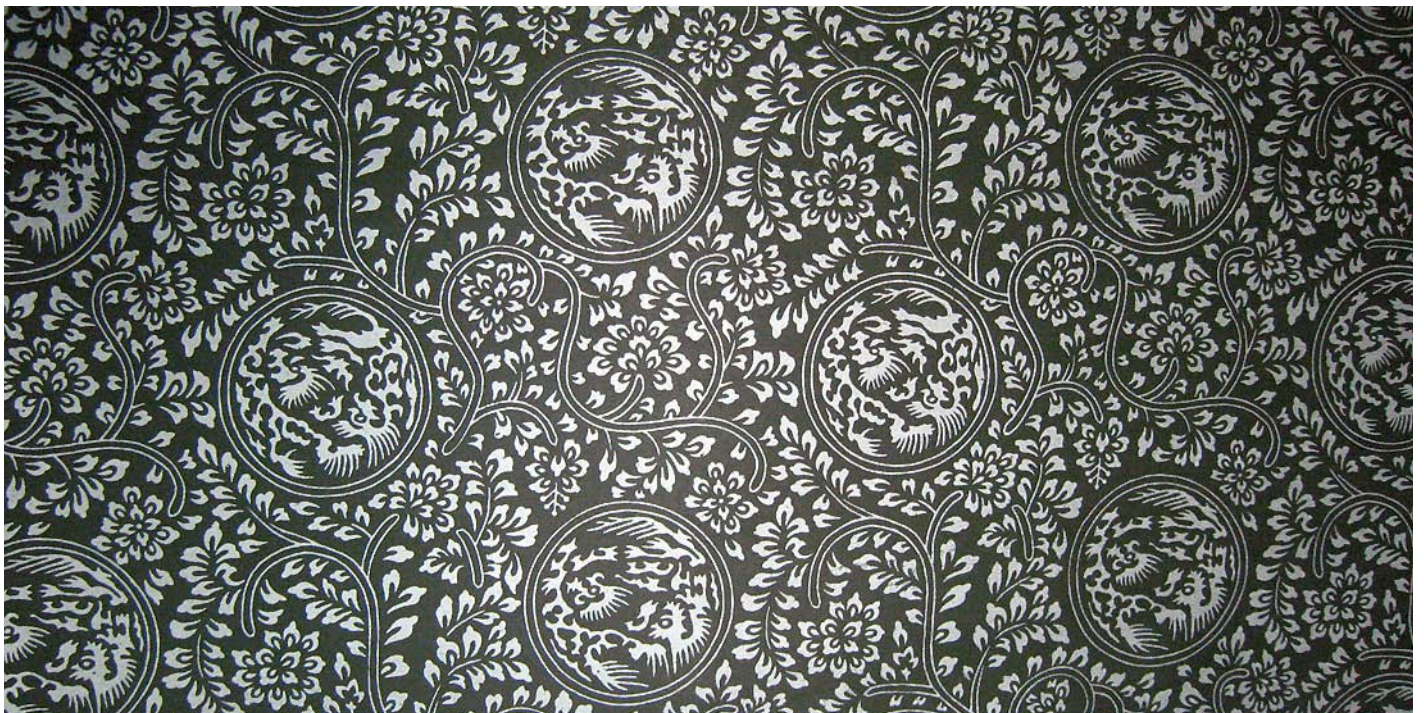
雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：950×1850

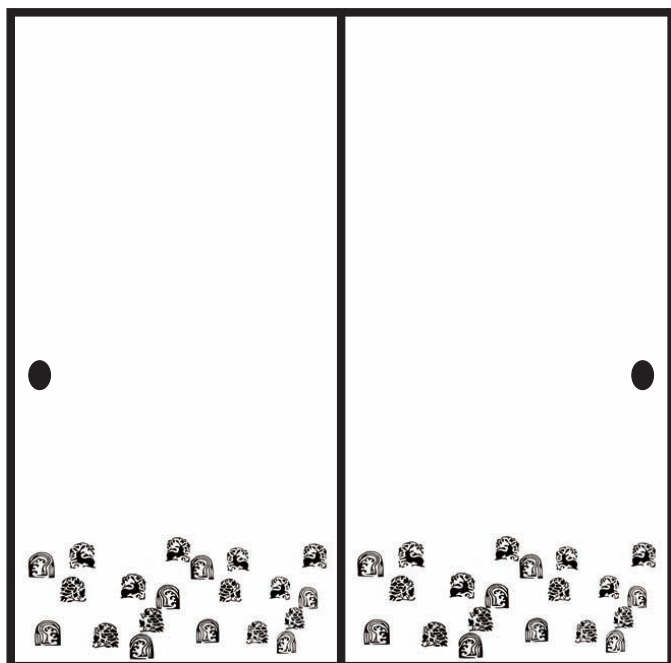


・町家好み

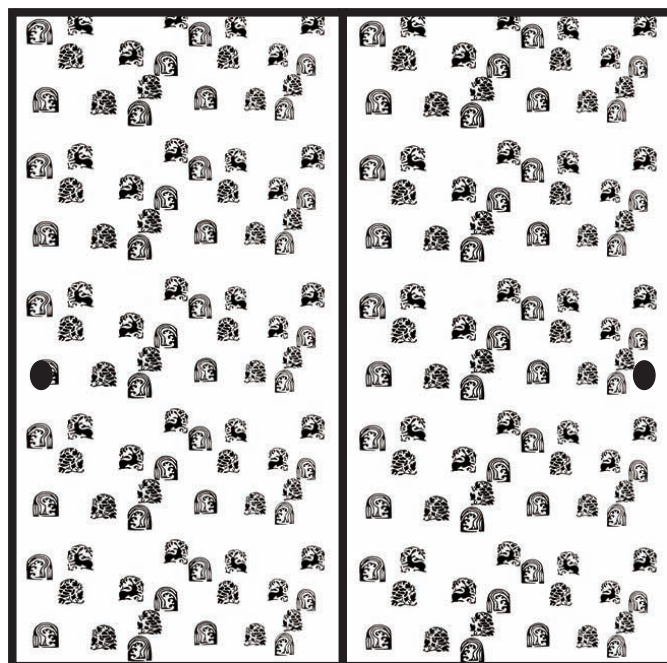
二匹の龍を巴形に組んだ丸文が、中央アジア伝来の狩猟円文につながる。もともと実見しない神獣であり、神獣や形は時代によっても定まらず、このような龍や獅子などが描かれた。そとには牡丹唐草が配されている。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄



総 柄

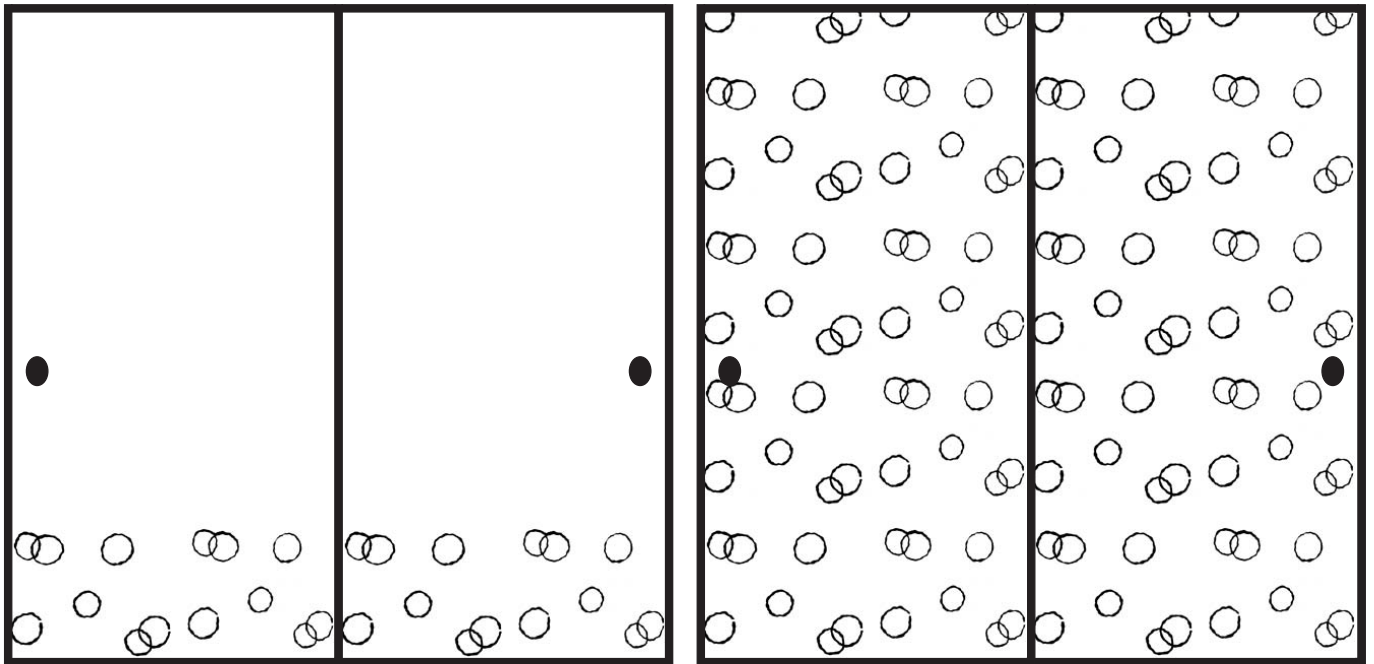
柄サイズ：910×1850 (総柄) / 910×350 (腰柄)



西欧ゴシック建築のステンドグラスの影響を思わせる作土形文(窓形)は、兎が波を跳んで宝相華咲く月に向かうより古い説話のかたちで、作土形、草花、兎の組み合わせを花兎文と呼び、幾種もの金欄の名物裂が残っている。ここでは、波、兎、草花を個々の作土形にして配している。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

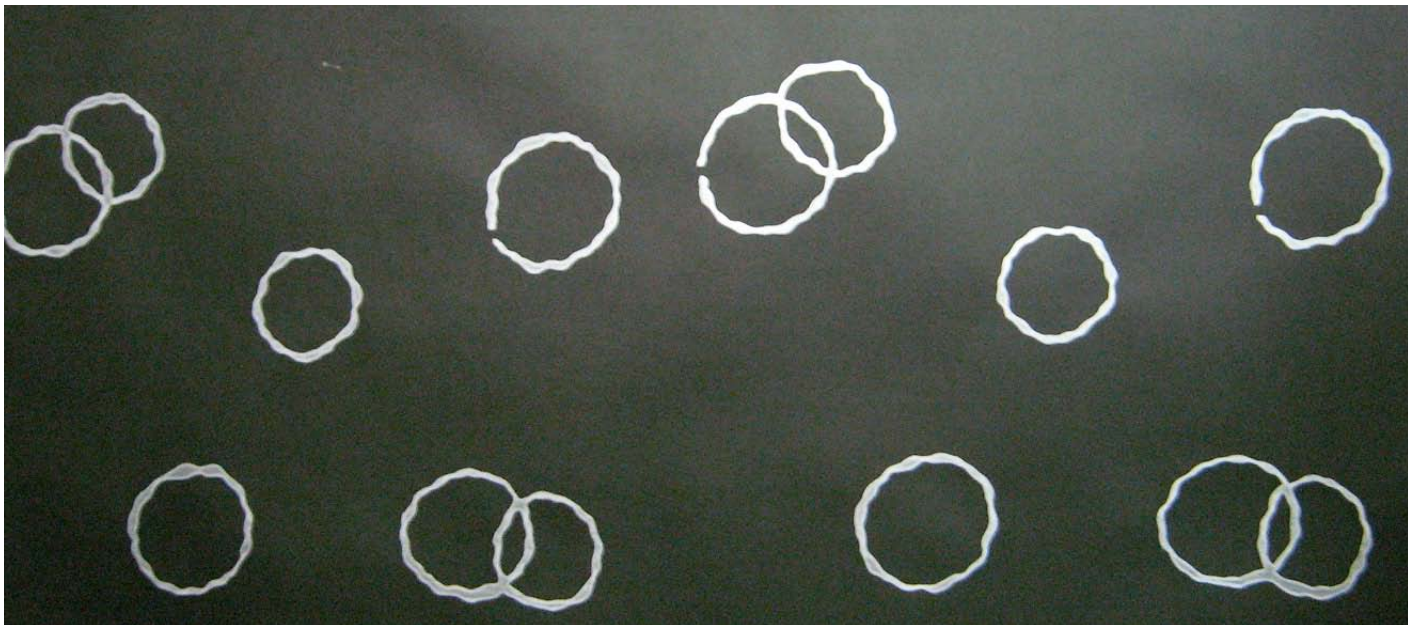
丈長：有 巾広：有



腰 柄

総 柄

柄サイズ：900×1850 (総柄) / 900×340 (腰柄)



・茶方好み

茶道具の鈎(かん)を文様化したもの。茶道具の鈎(かん)とは、茶釜を持ち上げるためにつける、左右の輪の事。

雲母集見本帳 No.3124 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母
No.3149 (障子) 使用紙：障子紙 / サイズ：2000×940 / 摺り色：胡粉

丈長：無 巾広：有



腰柄

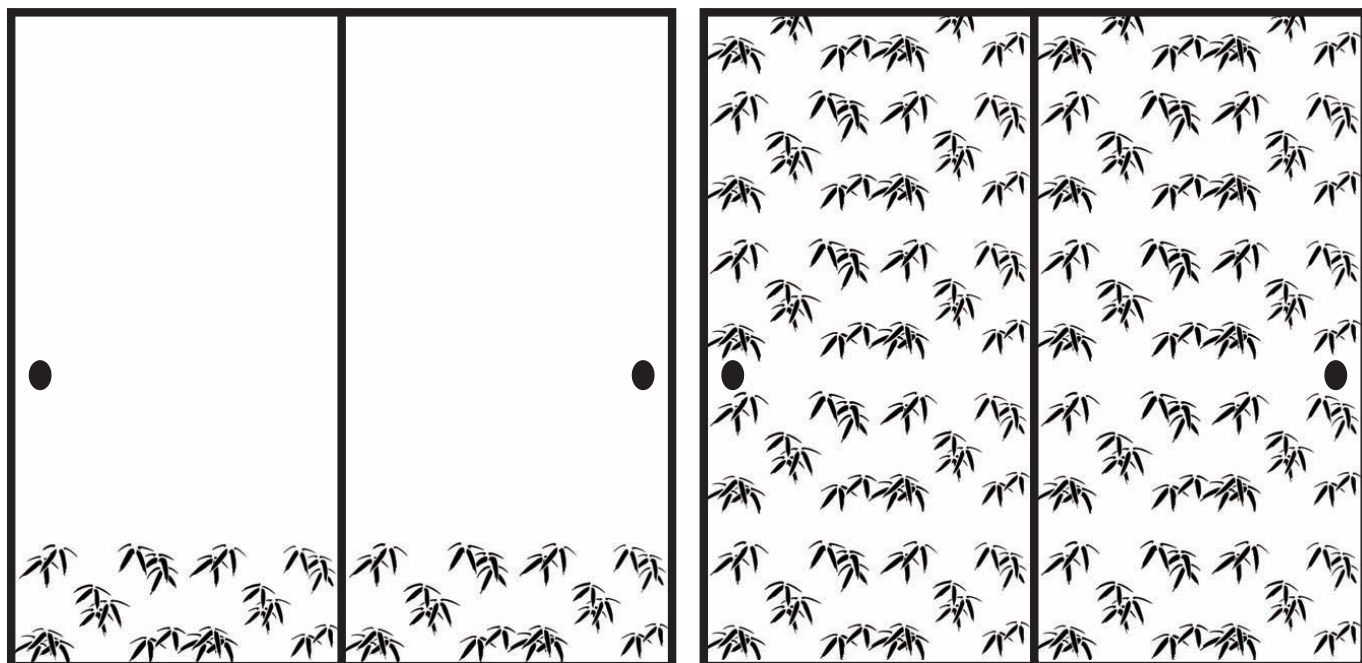
柄サイズ：970×890



しなやかな若笹文様を巧みに配置し、竹林で有名な嵯峨野を連想させる文様となっている。竹(笹)は吉祥文様の一つ。日本の吉祥文様として有名な「松竹梅」の由来は「松、竹は冬季に緑を保ち、梅は冬に花を持つ」事からといわれている。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄

総 柄

柄サイズ：920×1850 (総柄) / 920×340 (腰柄)



一般に大型のものを「竹」小型の物を「笹」と呼ぶ。「竹」は吉祥文様のひとつで、日本の伝統紋様によく登場する図柄である。この文様は茎を省き、笹の特徴である葉のみで構成された文様である。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：有 巾広：有



総柄

柄サイズ：900×1850 (総柄)

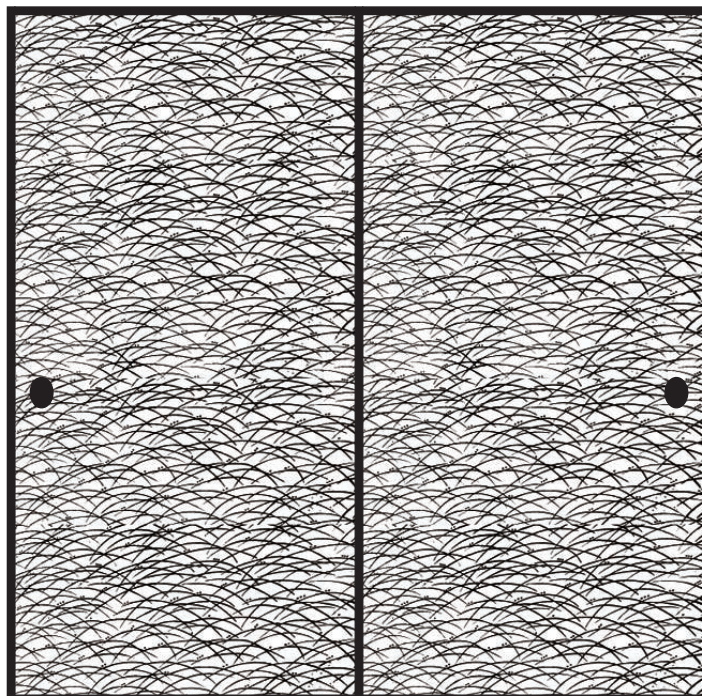


・町家好み

このようなしなやかな若笹文様は、江戸末期に特に流行したという。竹は青々としてまっすぐ伸びる様子から、榊(さかき)とともに清浄な植物のひとつとされており、今でも地鎮祭などで四隅に竹を立てる風習が残っている。

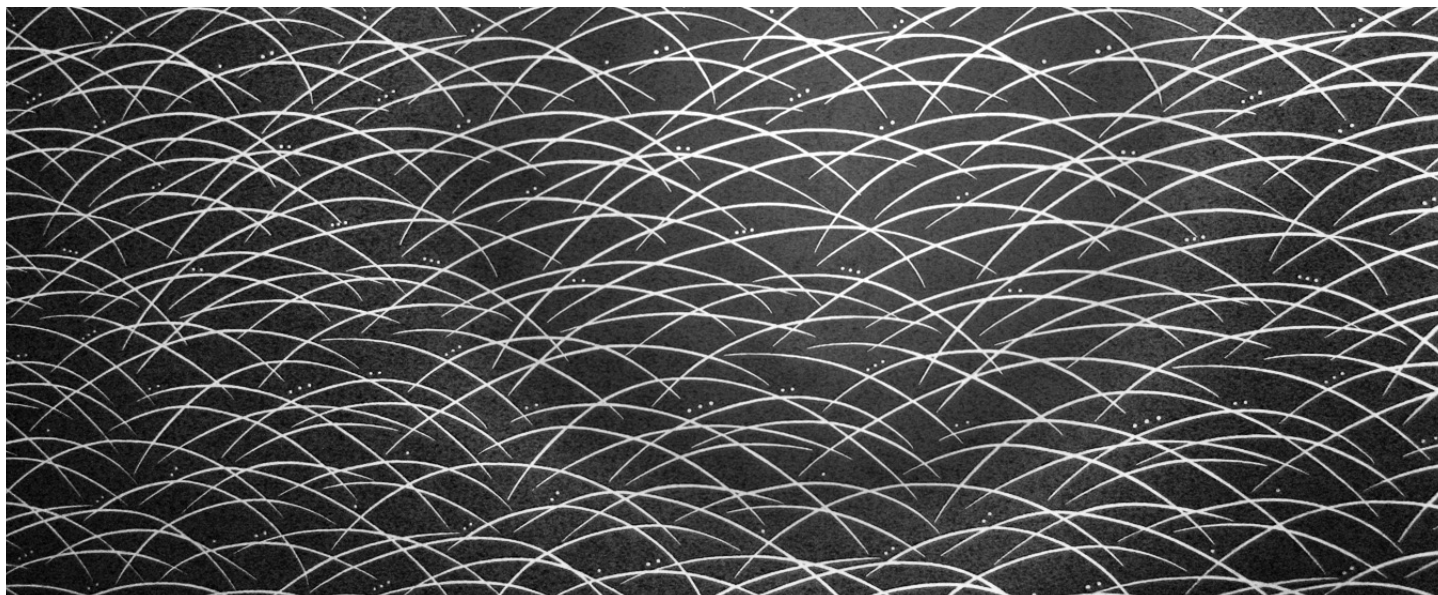
雲母集見本帳 No.3127 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) /サイズ：1910×970 /摺り色：雲母
No.3128 使用紙：桂 No.3414 雲母引き (肌色) /サイズ：1910×970 /摺り色：雲母
No.3129 使用紙：桂 No.3415 雲母引き (ねずみ) /サイズ：1910×970 /摺り色：雲母

丈長：無 巾広：無



総柄

柄サイズ：950×1900

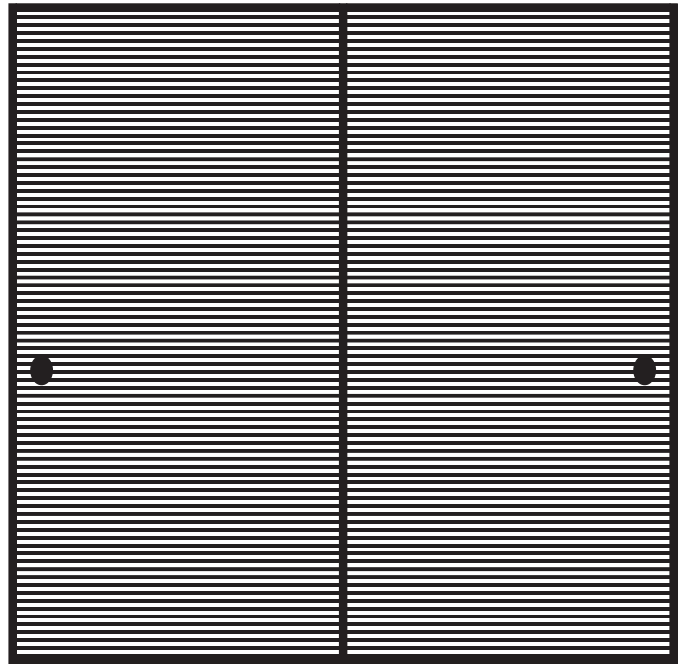
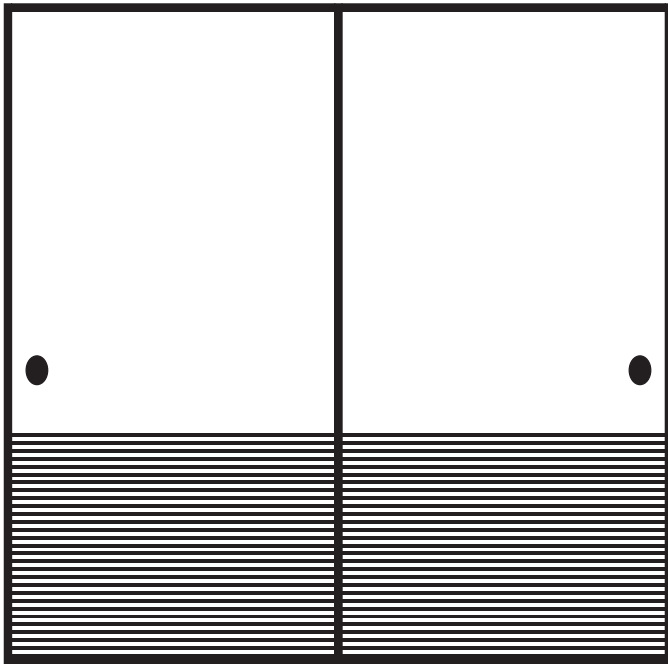


・町家好み

芒に露を置いた桃山期に流行った図柄である。今日でもよく見かける文様である。

雲母集見本帳	No.3132	使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母
	No.3133	使用紙：桂 No.2251 本鳥の子 (桑色) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲母
	No.3134	使用紙：桂 No.2253 本鳥の子 (青白椽) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲母
	No.3135	使用紙：桂 No.2252 本鳥の子 (水縹) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲母
	No.3136	使用紙：桂 No.2254 本鳥の子 (紫色) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲母
	No.3137	使用紙：桂 No.2255 本鳥の子 (白茶) / サイズ：1920×1000 / 摺り色：雲母

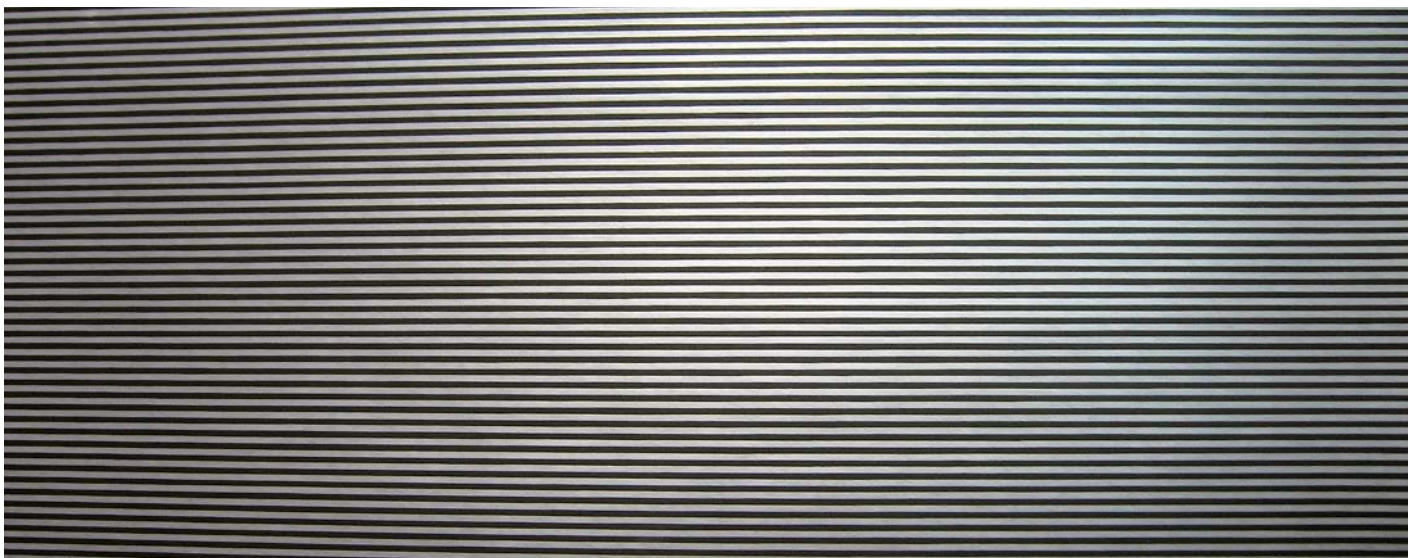
丈長：無 巾広：無



腰柄
(柄丈はご指示下さい)

総柄

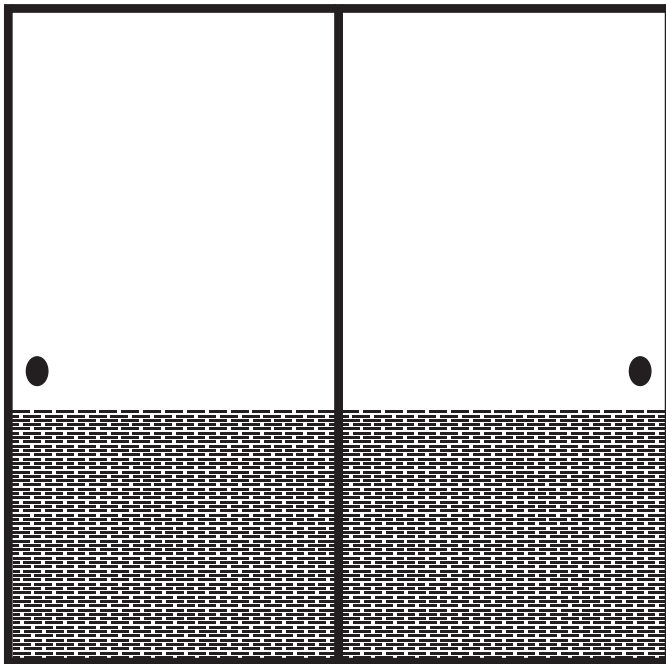
柄サイズ：930×1900



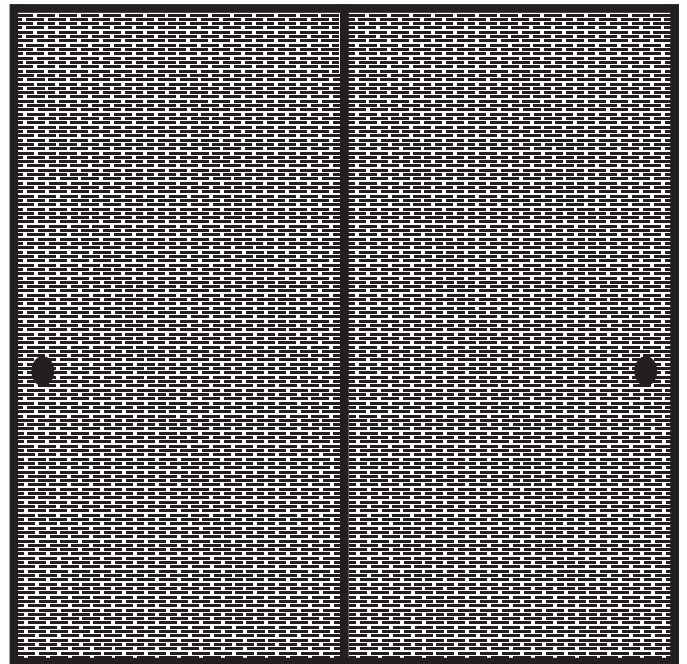
・茶方・町家好み

一分(約3ミリ)幅の筋が等間隔に引かれている単純な文様であるが、今でも襖・衝立・屏風によく使用される文様である。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母
丈長：無 巾広：無

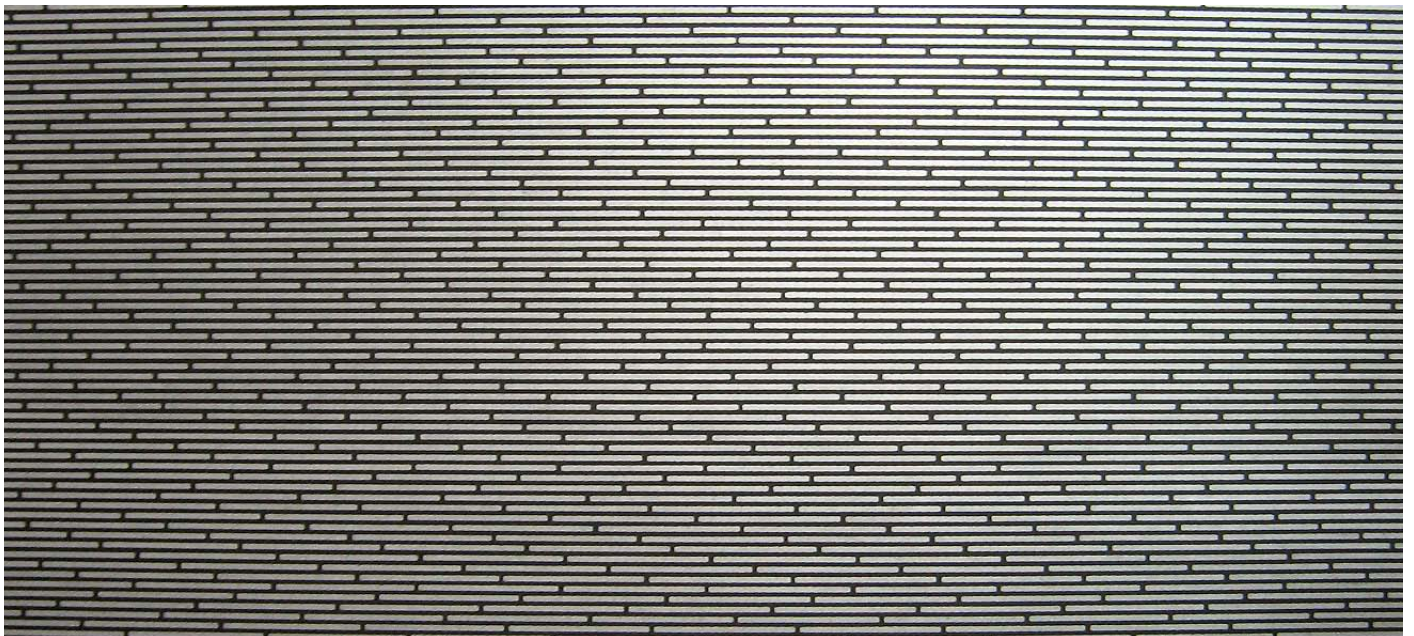


腰 柄
(柄丈はご指示下さい)



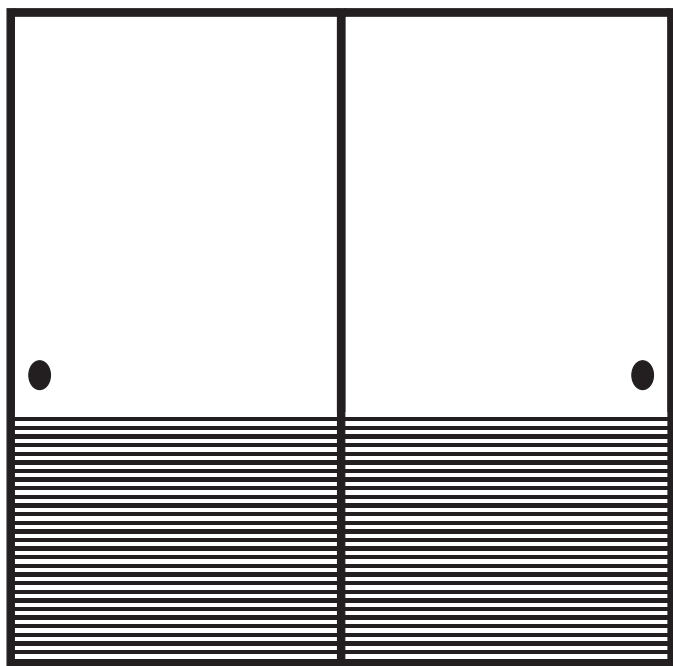
総 柄

柄サイズ：950×1850

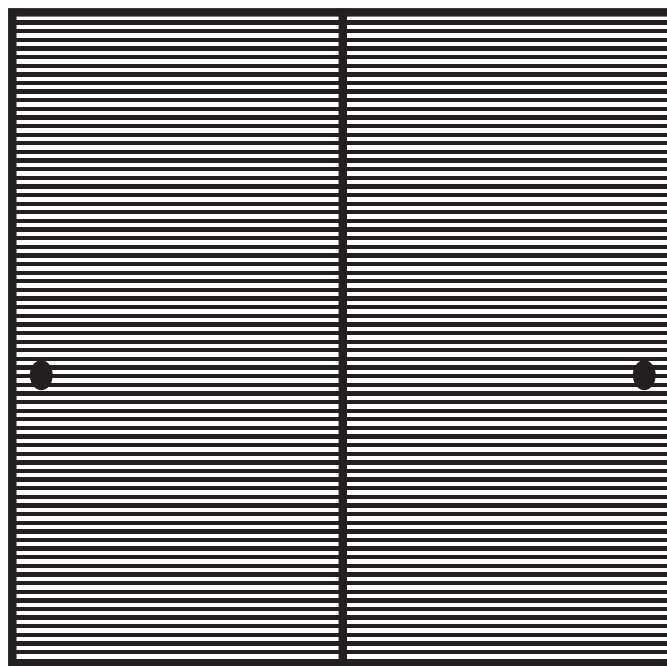


雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：無 巾広：無

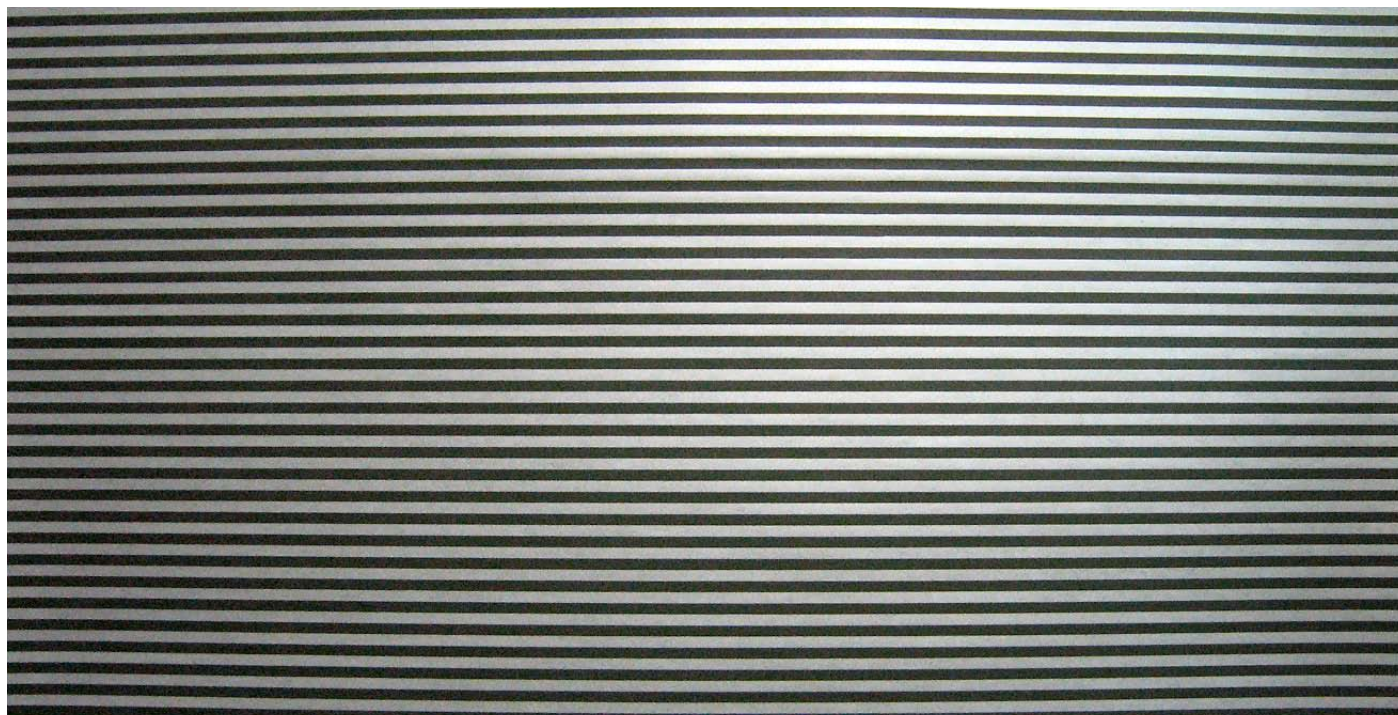


腰柄
(柄丈はご指示下さい)



総柄

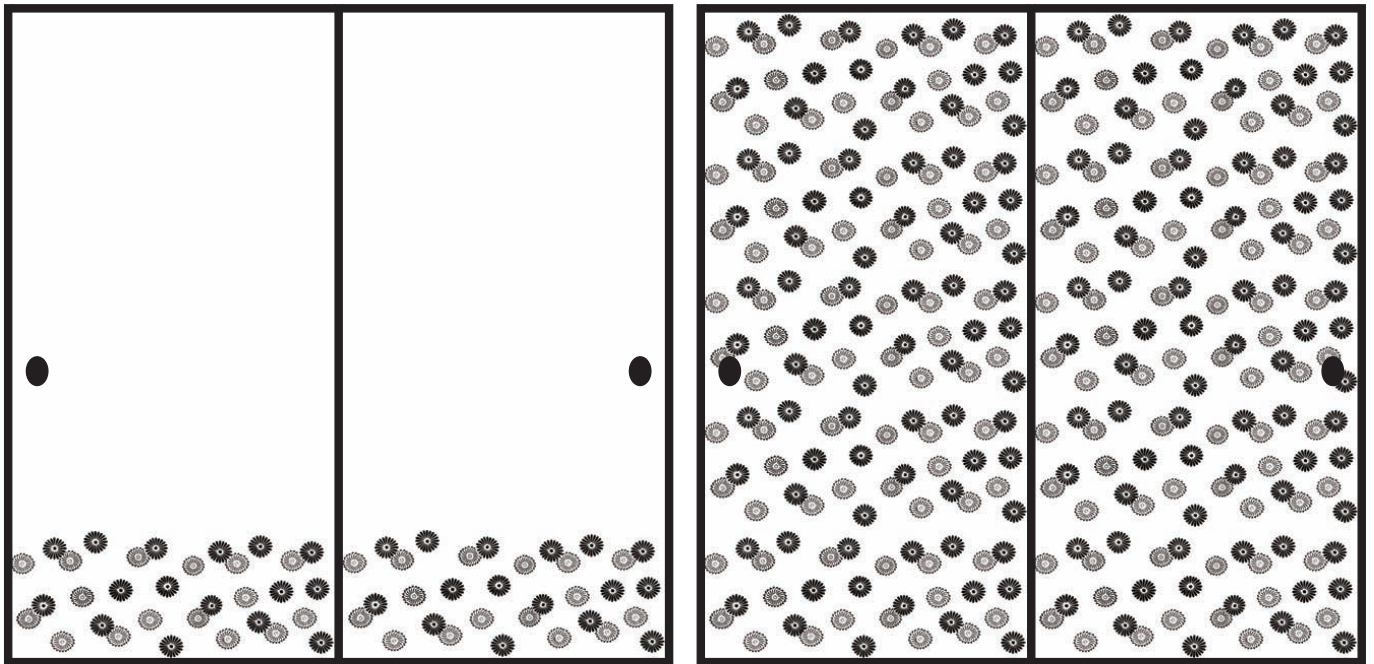
柄サイズ：940×1900



二分(約6ミリ)幅の筋が等間隔に引かれた文様である。横線は、目の錯覚により巾が広く見える事から、ふすま紙には横線の柄が多くある。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

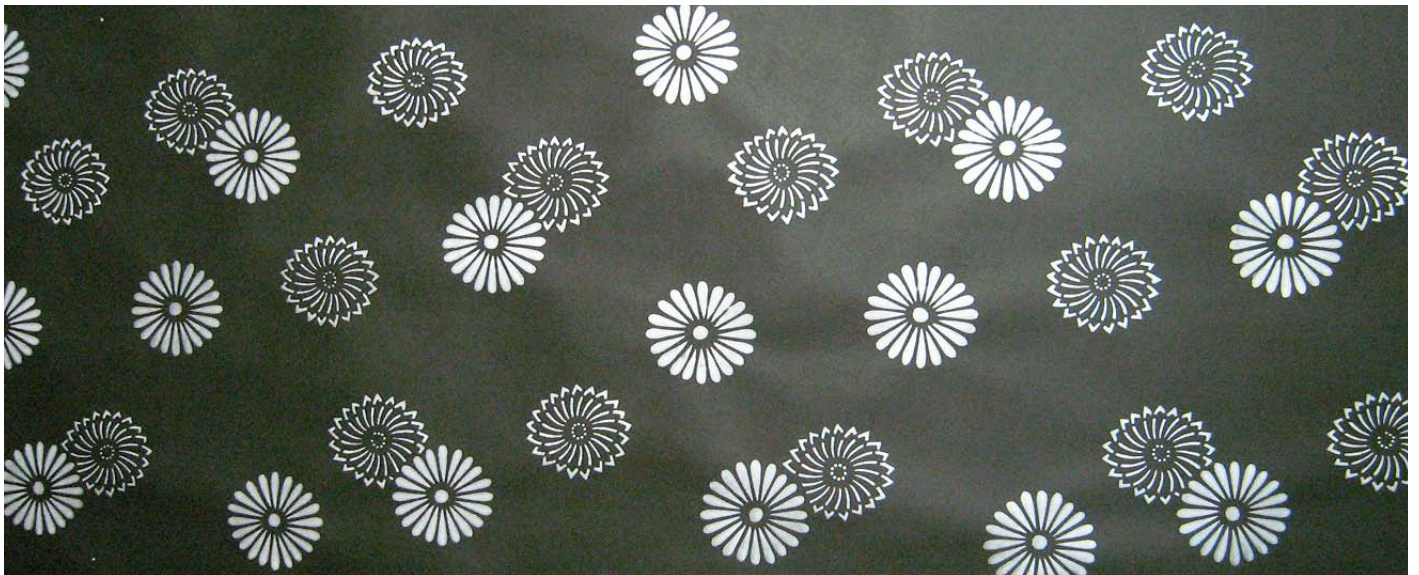
丈長：有 巾広：有



腰 柄

総 柄

柄サイズ：890×1850 (総柄) / 890×330 (腰柄)

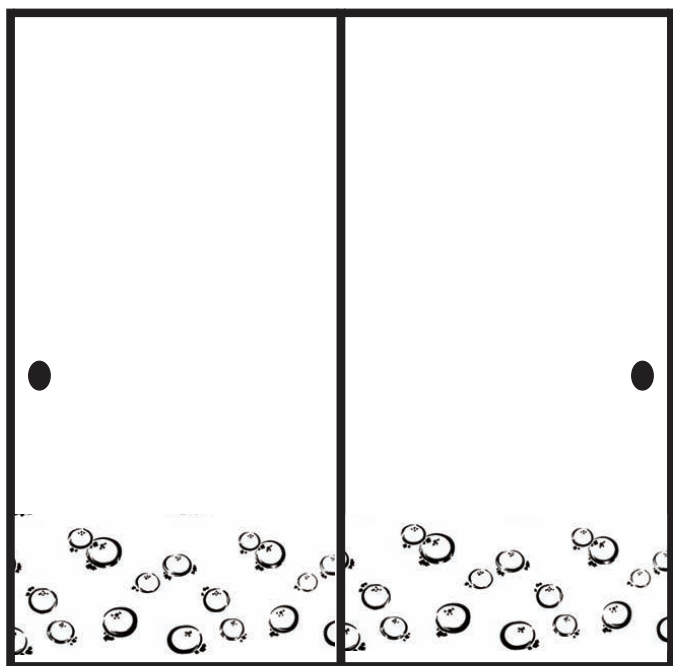


・公家・寺家好み

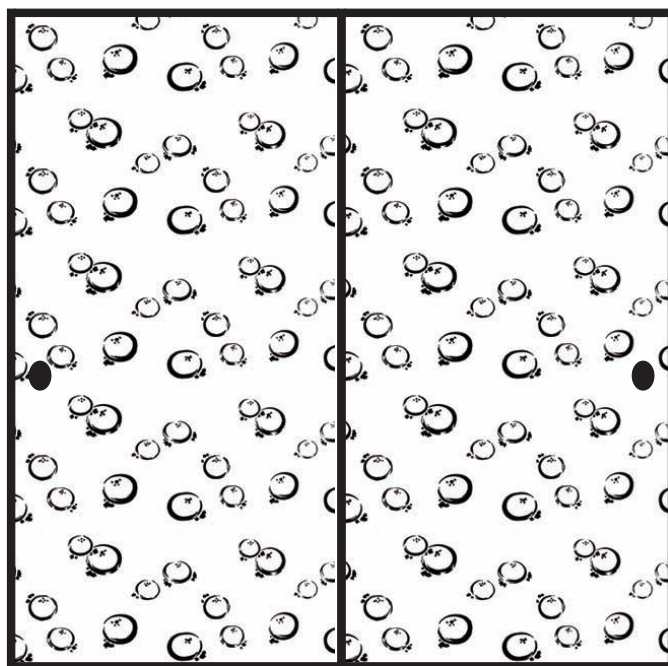
重要文化財である京都・曼殊院の襖が有名である。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有

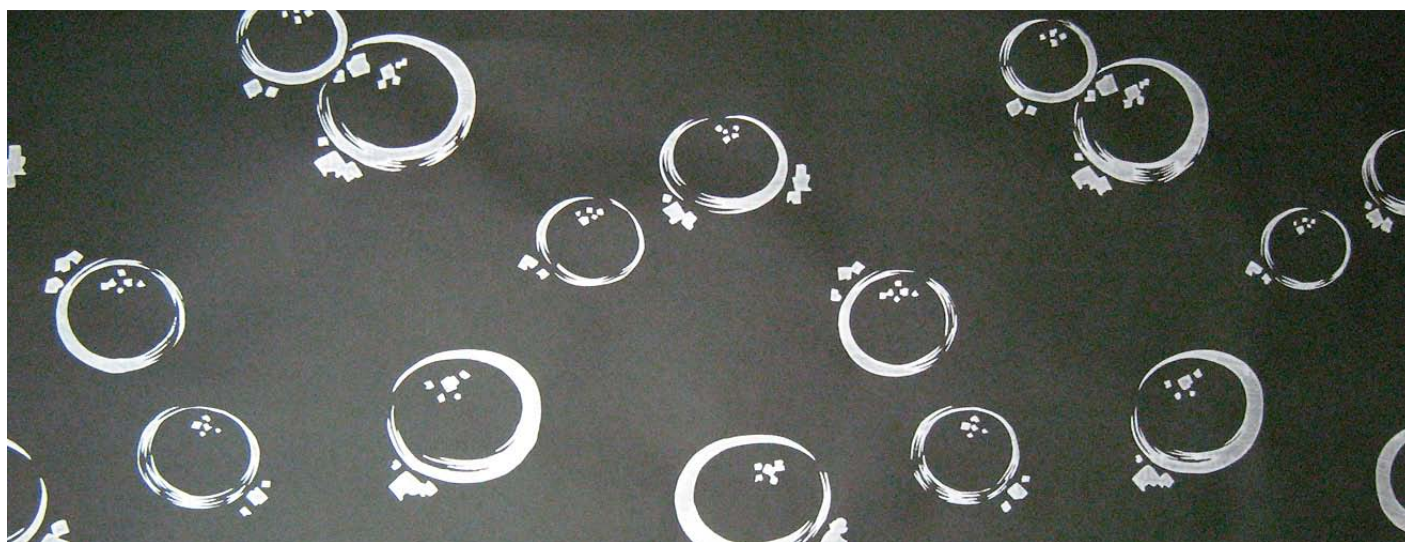


腰 柄



総 柄

柄サイズ：920×1850 (総柄) / 920×350 (腰柄)

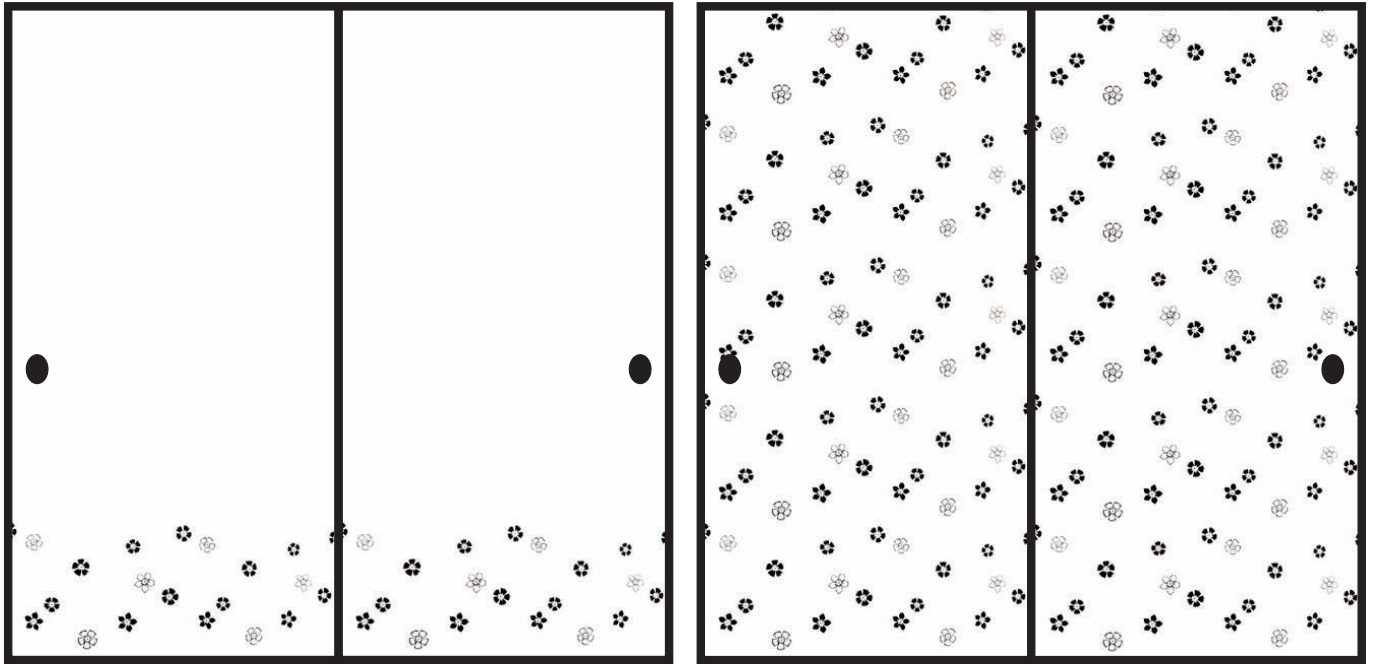


・町家好み

別名まんじゅう菊とも呼び、光琳独特の菊文である。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄

総 柄

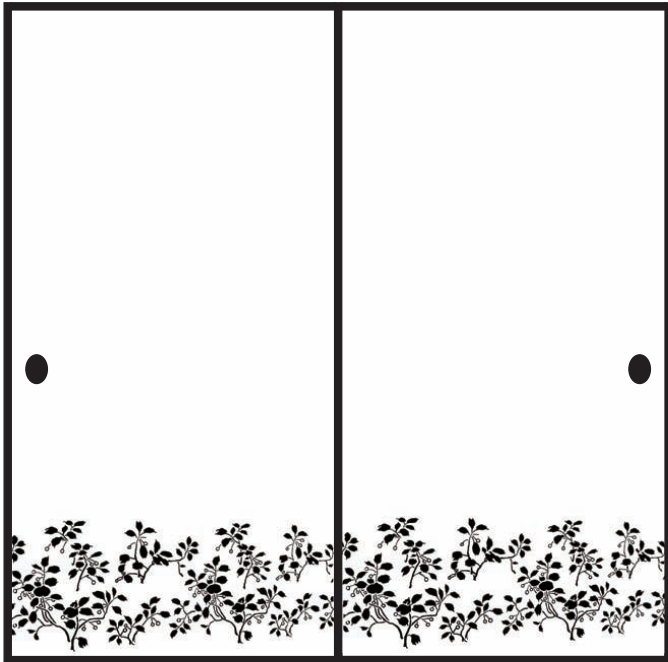
柄サイズ：920×1850 (総柄) / 920×350 (腰柄)



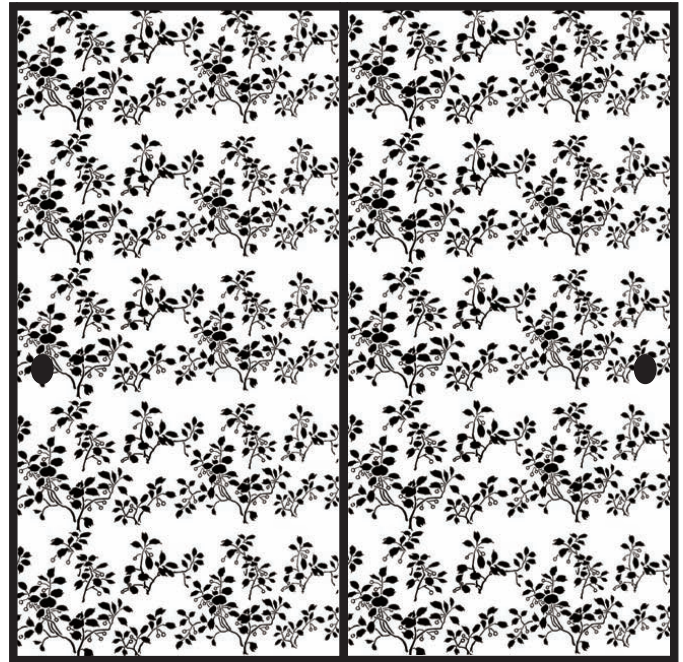
花だけを正面から完全に装飾風に描いて全面に散らし、形の大小と陰陽で変化をつけている。古来花だけの文様では西本願寺飛雲閣内の透し彫り棚板など美しい例がある。

雲母集見本帳 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲 母

丈長：有 巾広：有



腰 柄



総 柄

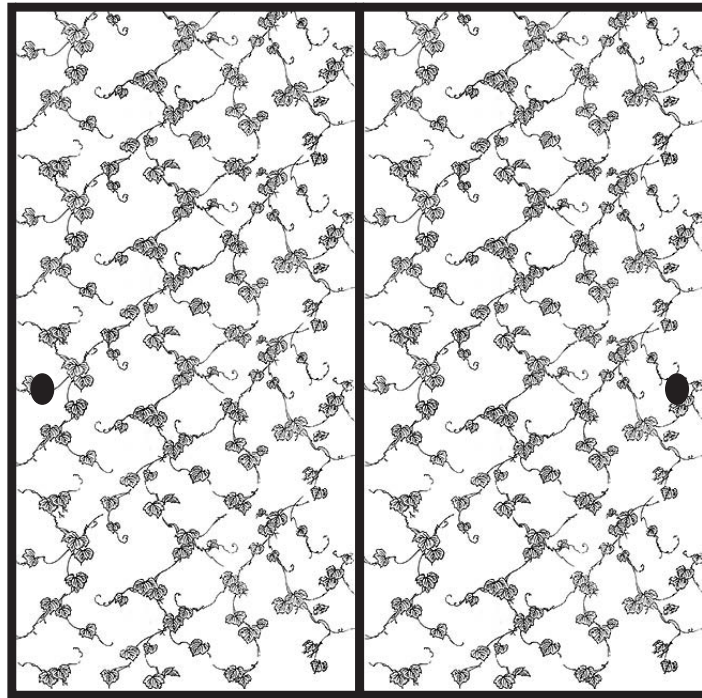
柄サイズ：920×1850 (総柄) / 920×350 (腰柄)



寒中にも青い葉に赤い実をつける藪こうじは、山橘の名で古くから万葉集に歌われているが、南天、千両、万両などと共に庭木の根じめに喜ばれ、まためでたい正月用品として愛好されている。この文様は可憐で姿の美しい藪こうじを、シルエット風に扱ったものであるが、このような写生風ものは明治以後の傾向で、江戸期の襖には使用しなかった。

雲母集見本帳 No.3145 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母
No.3148 使用紙：障子紙 / サイズ：2000×940 / 摺り色：胡粉

丈長：有 巾広：無



総柄

No.3145 柄サイズ：930×1800
No.3148 柄サイズ：930×1800

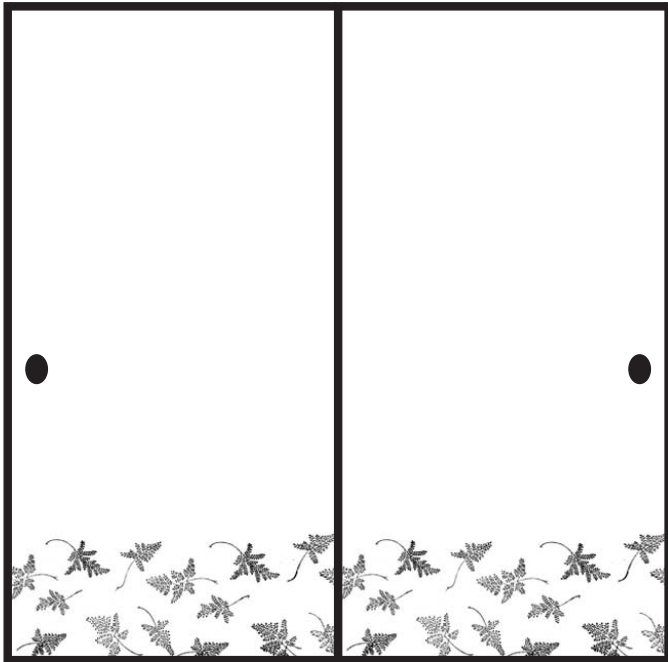


・町家好み

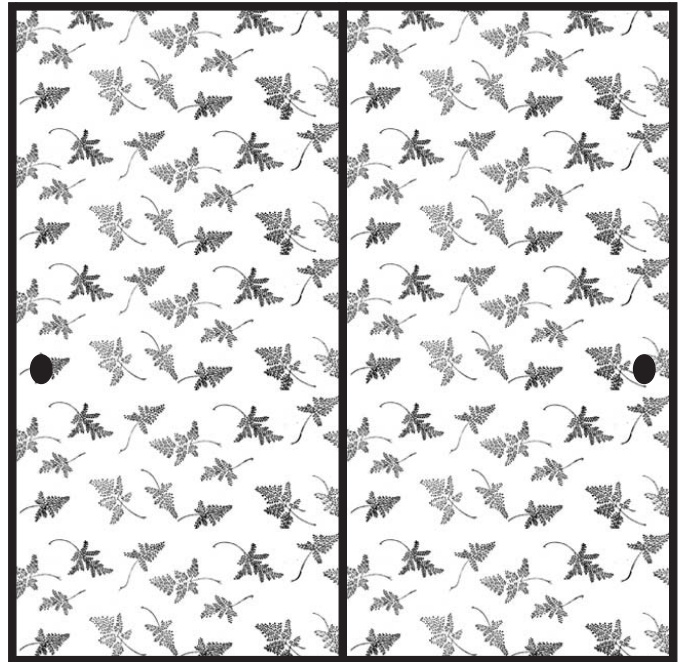
からかみの文様にある瓢箪は、昔から種子が多いため子孫繁栄につながる吉祥文様。秀吉の千成瓢箪が有名である。ここではあえて実を描かず、つる植物として似通った葛を使い、つると葉の柔らかな曲線で紙面を構成している。

雲母集見本帳 No.3146 使用紙：桂 No.2212 (桂8集 No.3063) / サイズ：1910×970 / 摺り色：雲母
No.3164 使用紙：使用紙：平安 7-194 / サイズ：2050×970 / 摺り色：色胡粉

No.3146 丈長：有 巾広：有
No.3164 丈長：無 巾広：無



腰 柄



総 柄

柄サイズ：910×1850 (総柄) / 910×350 (腰柄)

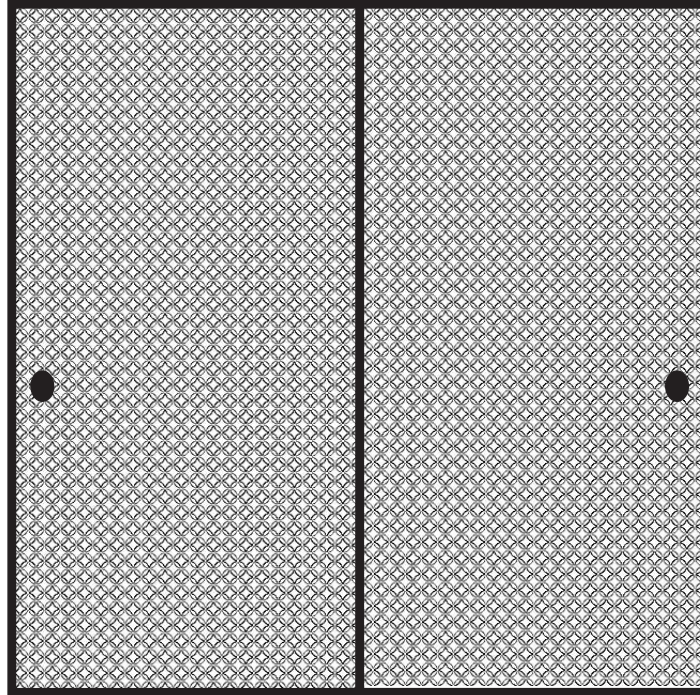


・町家好み

ワラビ、裏白と同じ隠花植物で、シダと総称するが、これは葉が叢生しない特徴をもつ。別に忍草とも書き、天智天皇の頃から陸奥国信夫郡から貢した忍摺(しのぶずり)は、この葉を摺つけたものである。繊細な日本人好みの文様で、衣料に、さらに瑞草としての縁起から武具、調度に描き絵、蒔絵としても使われている。

雲母集見本帳	No.3151	使用紙：桂 No.2256	本鳥の子 (肌色)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母
	No.3152	使用紙：桂 No.2251	本鳥の子 (桜色)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母
	No.3153	使用紙：桂 No.2253	本鳥の子 (猫柳色)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母
	No.3154	使用紙：桂 No.2252	本鳥の子 (桑色)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母
	No.3155	使用紙：桂 No.2254	本鳥の子 (水縹)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母
	No.3156	使用紙：桂 No.2255	本鳥の子 (紫色)	／サイズ：1920×1000	／摺り色：雲母

丈長：無 巾広：無



総柄

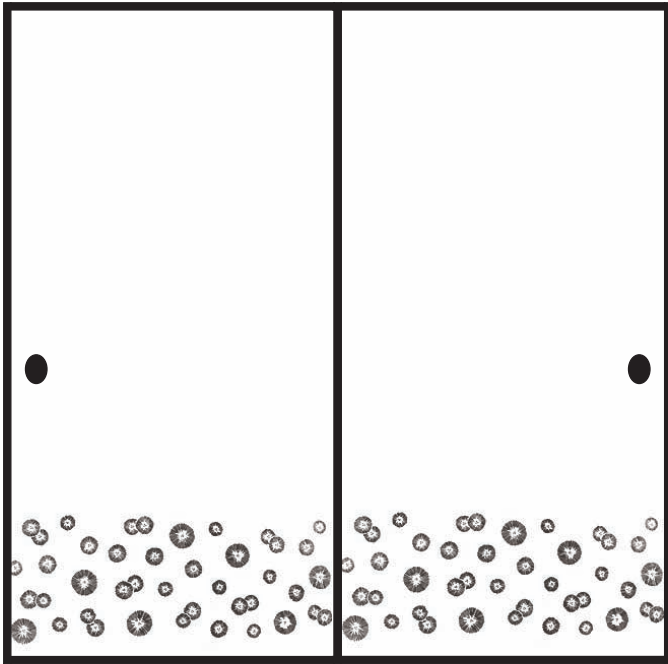
柄サイズ：940×1880



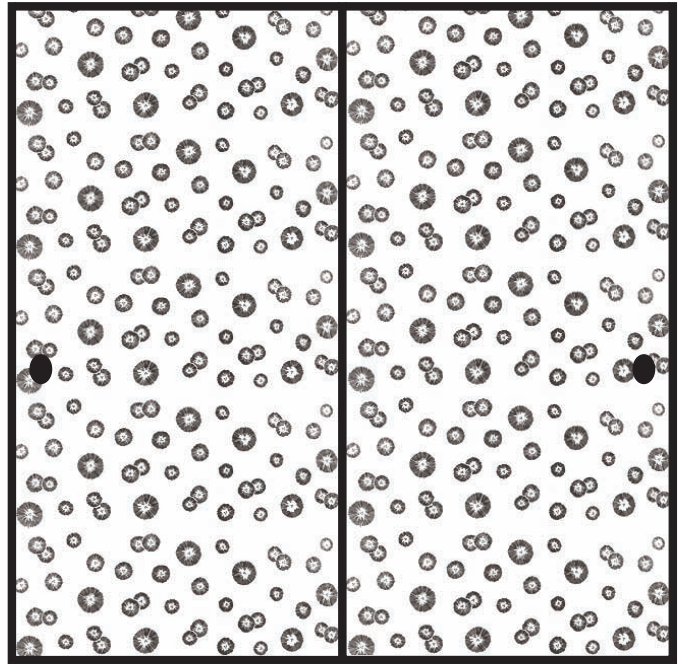
円周を円弧によって四等分した形を七宝文といい、これを一単位として上下左右に規則正しく連続させ、つなぎ合わせた文様を「つなぎ七宝(七宝つなぎ)」と呼ぶ。古くは輪の中に四つの弧ができるので「輪違い」と称した。七宝は曲線を割り付けた幾何学文で、公家が好んで用いた有職文(家格、伝統、位階に応じて公家の装束、調度につけた文様)の一つである。

雲母集見本帳 使用紙：平安 7-194 / サイズ：2050×970 / 摺り色：色胡粉

丈長：有 巾広：無

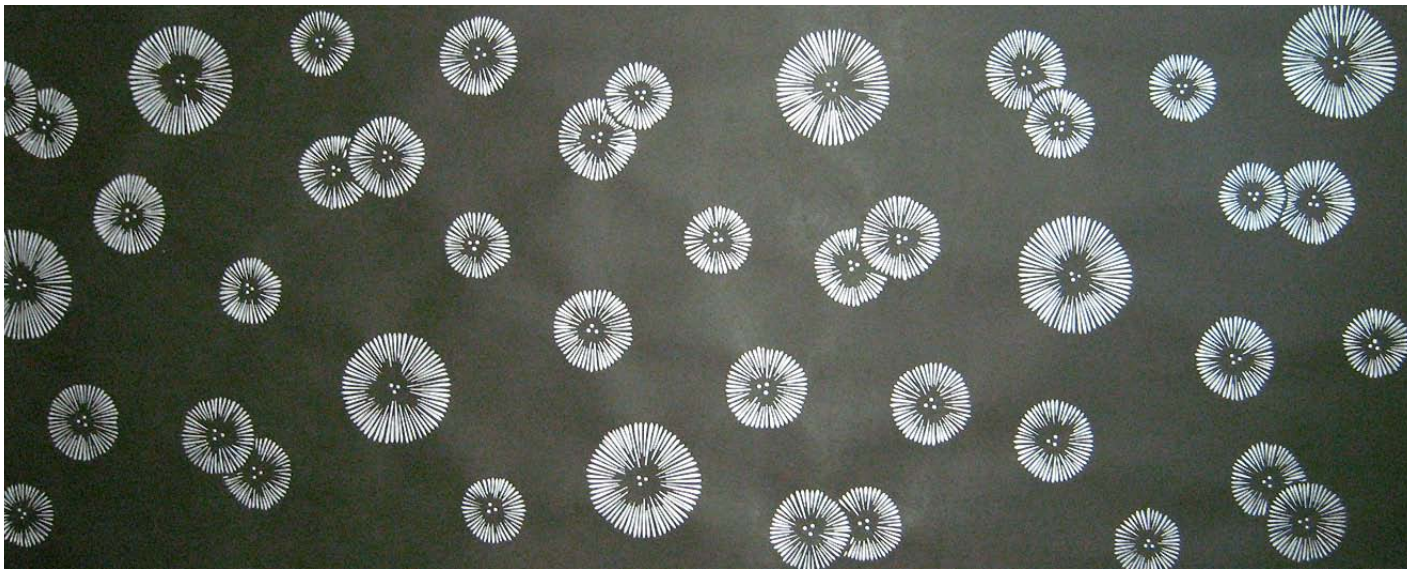


腰柄



総柄

柄サイズ：900×1850 (総柄) / 900×350 (腰柄)

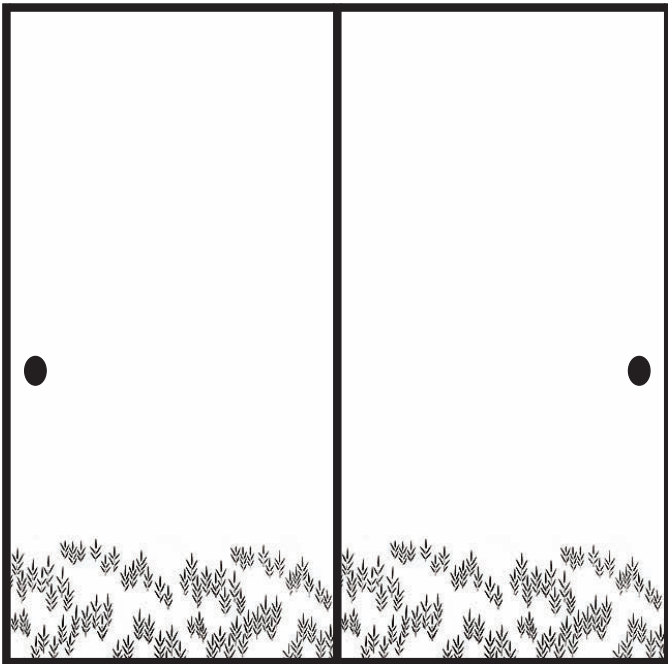


・当時の表千家好み

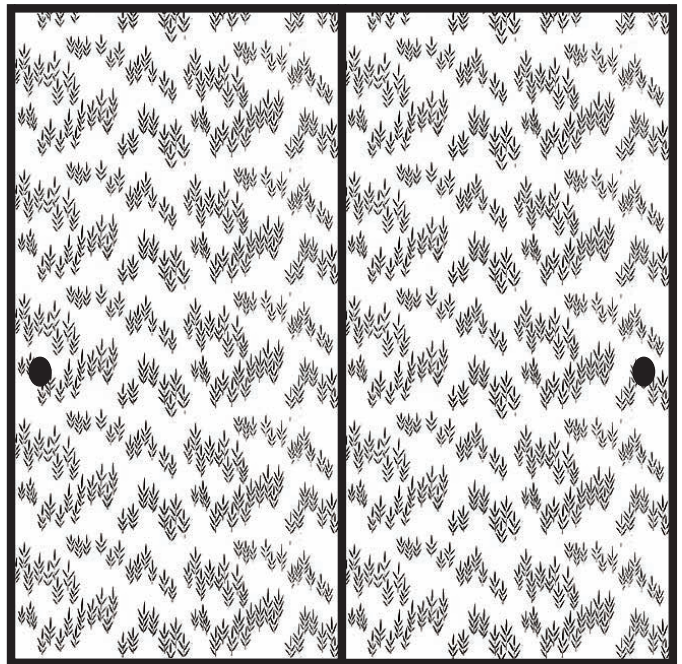
松は縁起の良い瑞木として、その松葉だけを多種多様に文様化している。これはその一つで、沢山の松葉を頭合わせにして、中心から放射状に広がった美しい直線が自然に丸文を構成している。元来針葉を球形に輪生する唐松の特製に着想したもの。松葉丸文とも呼んでいる。

雲母集見本帳 使用紙：平安 7-193 / サイズ：2050×970 / 摺り色：色胡粉

丈長：無 巾広：無

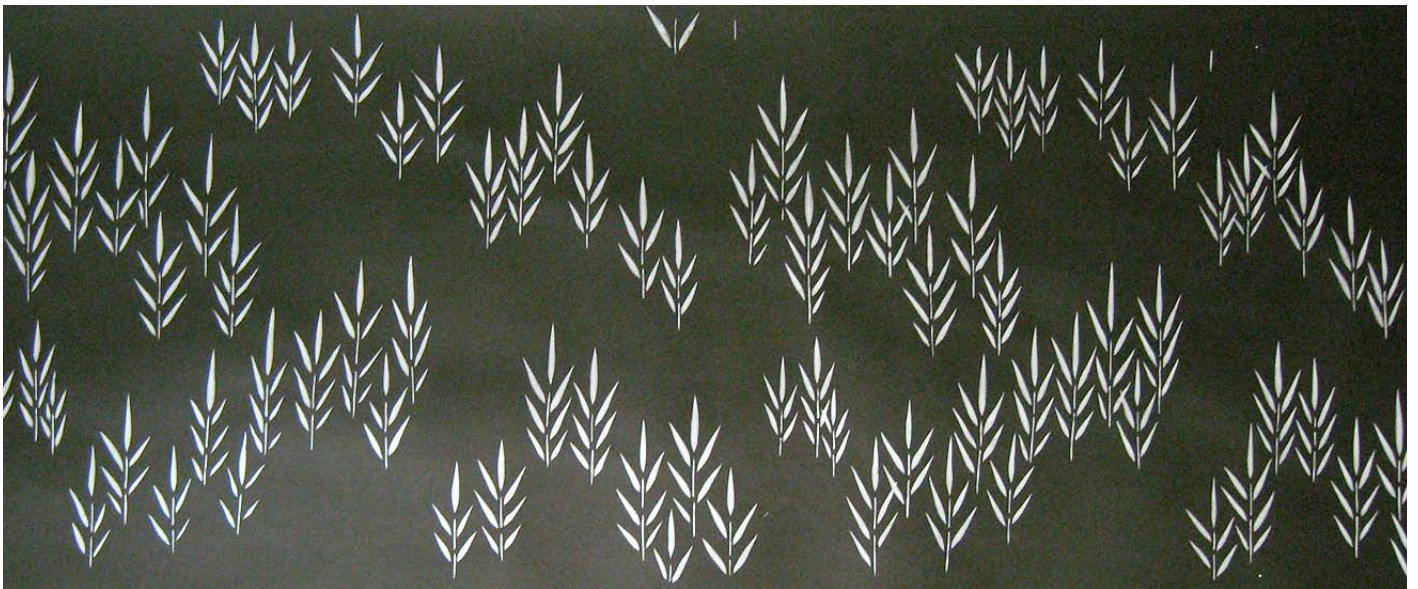


腰柄



総柄

柄サイズ：900×1850 (総柄) / 900×350 (腰柄)

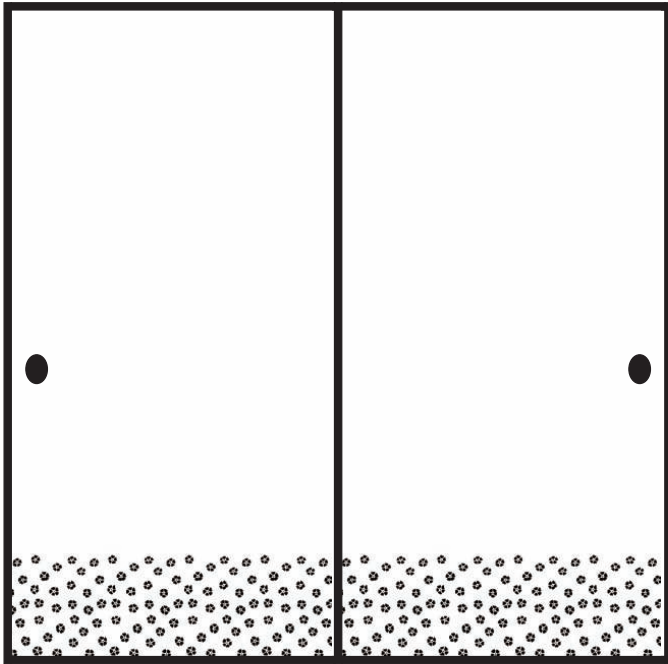


・町家好み

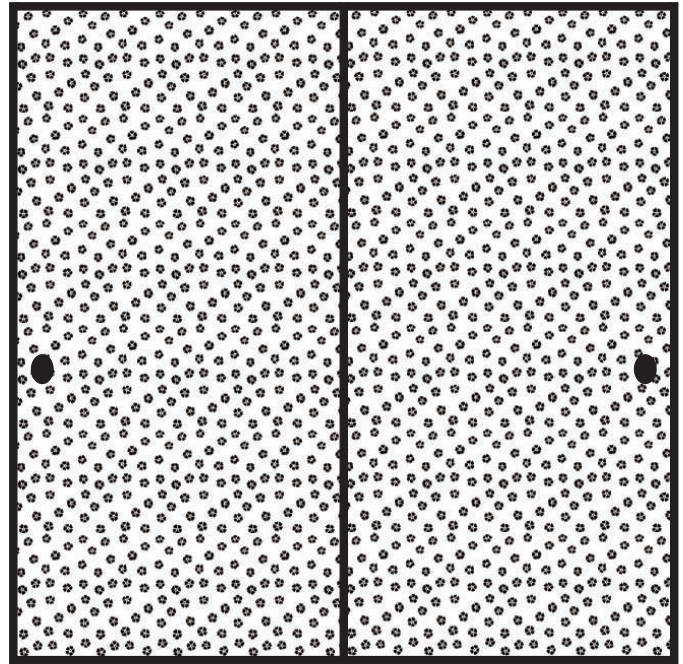
水辺に生える芦を襖紙として図案化したものであり、いつの時代にも流行る文様である。

雲母集見本帳 使用紙：平安 7-195 / サイズ：2050×970 / 摺り色：胡 粉

丈長：無 巾広：無

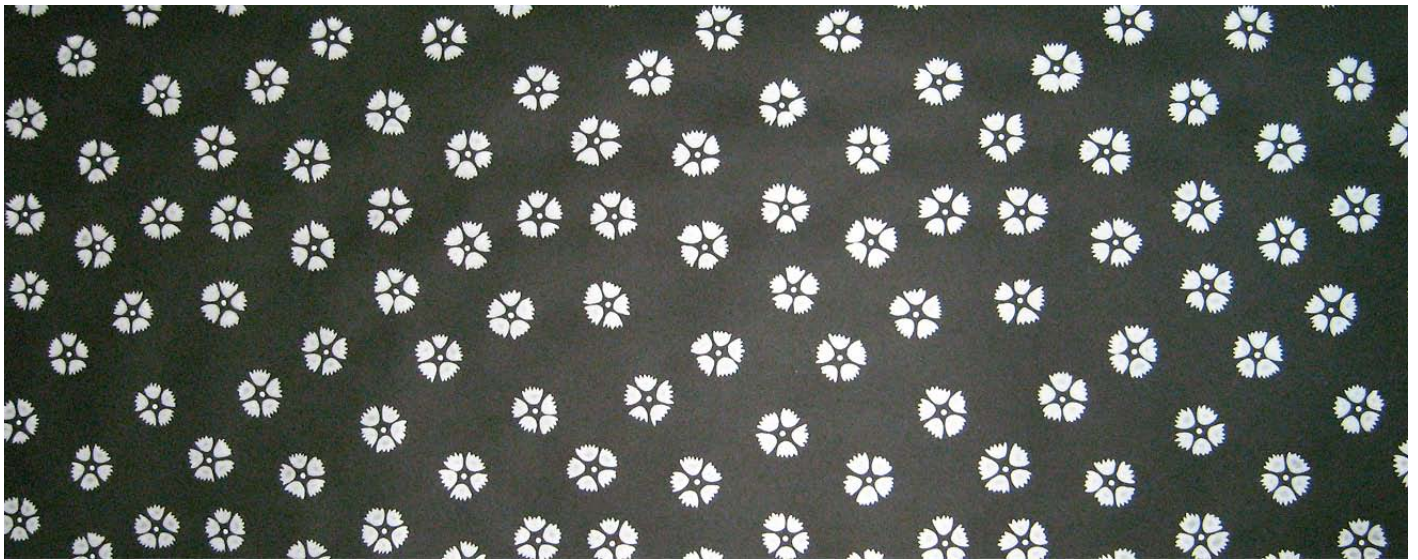


腰 柄



総 柄

柄サイズ：920×1850 (総柄) / 920×340 (腰柄)



平安時代、当時の中国である唐からナデシコ科ナデシコ属の「石竹」という植物が輸入された。この石竹を「唐撫子」と呼んだのに対し、日本在来種である河原撫子を「大和撫子」と呼ぶようになった。漢字の「石竹」とは、葉が竹に似ているところから付いたらしい。この文様は、可憐な石竹の花を図案化したものである。